



The Canon Institute for Global Studies

CIGS Working Paper Series No. 26-003E

Two Faces of Intergenerational Justice: Survival and Distributive Justice across Cultures

Toshiaki Hiromitsu (Policy Research Institute)
Keiichiro Kobayashi (Keio University, CIGS, RIETI)
Tatsuyoshi Saijo (Kyoto University of Advanced Science)
Yoshinori Nakagawa (Sopia University)

February 9, 2026

※Opinions expressed or implied in the CIGS Working Paper Series are solely those of the author, and do not necessarily represent the views of the CIGS or its sponsor.
※CIGS Working Paper Series is circulated in order to stimulate lively discussion and comments.
※Copyright belongs to the author(s) of each paper unless stated otherwise.

General Incorporated Foundation

The Canon Institute for Global Studies

一般財団法人 キヤノングローバル戦略研究所

Phone: +81-3-6213-0550 <https://cigs.canon/>

世代間正義の二つの顔——存続的正義と分配的正義の文化横断的分析

Two Faces of Intergenerational Justice: Survival and Distributive Justice across Cultures*

廣光俊昭（財務総合政策研究所）、小林慶一郎（慶應義塾大学、キャノングローバル戦略研究所）、西條辰義（京都先端科学技術大学）、中川善典（上智大学）

2026年2月9日

要旨

地球システムの限界を超えない持続可能な社会を実装するには、規範の正しさだけでなく、市民が納得できる理由を共有できるかが成否を分ける。本研究は、西洋哲学と道徳心理学を統合した12の道徳原理を用い、米・仏・日・中・印・UAE・南アフリカの3,619人を対象に、世代間倫理の公共的受容と政策的説得性を文化横断的に検証した。因子分析と多次元尺度構成法（MDS）により、世代間倫理は道徳基盤理論の「個別化／結合」よりも、「存続的正義」と「分配的正義」という二主題に整理できることを示す。

未来への危害回避や環境保全を志向する「存続的正義」は世代間倫理の中核を成す一方、世代間の分配の公平やそれを成立させる制度を構築する「分配的正義」は文化による揺れが大きい外縁で、発展段階とともに重心が移る。新興国では両主題とも強いが、日本などの成熟社会では「分配的正義」が後景化し「存続的正義」への特化がみられた。高年齢・都市居住・子どもありは道徳原理への支持を高め、イデオロギーの影響は限定的だった。

政策課題では、気候・先端技術だけでなく、財政でも「存続的正義」の主題が説得力を持つことを示すとともに、増税などの政策手段への反発が受容を阻むことを明らかにした。共有されやすい「存続的正義」の主題によって市民的視座を立ち上げた上で、移行措置（段階導入、補完策）と負担配分を同時に示し、生活者としての抵抗を抑える二段階戦略が不可欠である。

キーワード

世代間正義、世代間倫理、道徳原理、存続的正義、分配的正義、政策課題

1. はじめに

地球システムの限界を超えない持続的な社会の構築に向け、Gupta et al. (2023) は「地球システムの正義（Earth System Justice）」という概念を提示している。しかし、高度な規範

* 亀田達也、上條良夫、大垣昌夫、佐藤主光の各氏に、有益なコメントと討議に感謝する。

的要請を具体的な政策へと落とし込む過程では、各社会の文化的背景や価値観による摩擦が生じやすい。地球システムの正義の実装には、人々が世代間の公平性をどのような論理で理解し、世代間正義をどのように受容しているのか、その構造の解明が不可欠である。

従来の研究は、西洋的な規範理論や道德心理学の単一的な適用にとどまり、グローバルな合意形成に必要な文化横断的視座を欠いていた。本研究は、世代間倫理を包括的な12の道德原理に整理し、7か国での国際比較調査をおこなう。規範的な「あるべき論」と、人々が実際に抱く「価値観」の間の断絶を実証的に埋めることで、持続可能な社会に向けて、道德的説得が有効性を発揮する回路を明らかにする。

本研究は以下の三つの問いに答えることを目的とする。

1. 世代間倫理の背後に、どのような普遍的な認知構造が存在するか。
2. その認知構造において、異なる文化的背景や発展段階にある社会、異なる属性を持つ人々は、どのような受容パターンの差異を示すか。
3. 政策課題の性質（気候変動、財政、先端技術）によって、人々に響く説得的な道德原理はどのように変化するか。そして、原理への支持を、具体的な政策手段（増税や規制）の受容につなげるためには、どのような戦略が有効か。

本研究の主要な知見は三点である。第一に、世代間倫理は道德基盤理論の「個別化／結合」よりも、「存続的正義」と「分配的正義」という二主題に整理できることを明らかにした。第二に、「存続的正義」は文化横断的に高支持の「中核」、「分配的正義」は文脈依存的に揺れる「外縁」として現れ、成熟社会では後者が後景化し、前者への特化が強いことを示した。第三に、政策場面では「存続的正義」が広く説得力を持つ一方、原理への支持が増税・規制などの手段の受容に直結しない乖離を確認し、政策の実装のための二段階戦略の必要性を示した。

本稿の構成は以下の通りである。第2節では、世代間倫理と道德心理学に関する先行研究を概観し、本研究の理論的枠組みとサーベイの設計について述べる。第3節では、因子分析および多次元尺度構成法（MDS）を用いた分析結果を示し、世代間倫理の構造と文化差、および政策に向けて人々を説得する力についての実証的証拠を提示する。第4節で、得られた知見の理論的・政策的含意を議論し、第5節で今後の課題を展望する。

2. 先行研究と本研究の方法

2.1. 先行研究

世代間正義に関する議論は、長らく西洋の規範的な政治哲学によって主導されてきた。ロールズの貯蓄原理や功利主義などの理論は、世代間で資源や負担をどう分配するべきか、そのあるべき姿を精緻に論じてきた (Tremmel, 2006; Gosseries & Meyer, 2009)。しかし、これらの規範理論が、現実の社会において一般の人々にどの程度受容されているかという点については、実証的な裏付けが十分に存在しない。

人々の道徳的直観を測定する心理学的アプローチとして、近年最も有力な枠組みが道徳基盤理論 (Moral Foundations Theory) である (Haidt & Joseph, 2004; Haidt, 2012; Atari et al., 2023)。道徳基盤理論は、人間の道徳性を六つの基盤——ケア、平等、比例性、忠誠、権威、清浄——に分類し、これらを個人の権利や福祉を重視する「個別化 (Individualizing) 基盤」と、集団の結束や秩序を重視する「結合 (Binding) 基盤」という二つの上位基盤に整理した (Graham et al., 2011)。この「個別化／結合」の枠組みは、アメリカを中心とする西洋先進国におけるイデオロギ的的分断への説明力を発揮してきた。リベラル派は個別化基盤の道徳のみを強く支持するのに対し、保守派は個別化に加え、結合基盤の道徳もバランスよく支持する傾向がある (Graham et al., 2009)。この知見に基づき、気候変動対策に向けた説得に際し、リベラルには危害の回避を、保守には「自然の純潔」の保護を訴求すべきであるなどとする応用研究も蓄積されている (Feinberg & Willer, 2013)。

しかし、道徳基盤理論に基づく研究には、本研究の文脈において二つの重大な限界がある。はじめに、その理論的射程は「現在の」社会集団内の対立や協力 (水平的な関係) に焦点を当てており、見知らぬ「将来世代」への責任 (垂直的な時間軸) を必ずしも想定していないことである。世代間倫理においては、伝統的な「リベラル／保守」や「個別化／結合」という対立軸がそのまま適用できるとは限らない。加えて、分析対象の地理的・文化的偏りがある。多くの研究が、いわゆる西側の豊かな先進民主社会 (Western, Educated, Industrialized, Rich, Democratic: WEIRD)、とりわけアメリカのデータに基づいており、文化横断的な普遍性を欠く (Henrich et al., 2010)。Nisbett & Spaiser (2023) など一部の例外を除き、グローバルな文脈での検証は不十分である。

世代間倫理に特化して人々の嗜好を実証的に検証した研究も現れはじめているが (Zhang, 2018; Hurlston et al., 2020; Inoue et al., 2021; Hiromitsu, 2024a)、これらは検討する道徳原理が限定的であったり、調査範囲が単一国に留まっていたりするため、世代間倫理の構造の包括的な解明には至っていない。すなわち、先行研究には、規範理論による抽象的な正義の議論と、人々が実際に受容する価値観の経験的知見とのあいだに大きな断絶が存在する。この断絶を克服するには、規範的議論を裏づける広範な実証的調査と、得られた実証的知見を理論的に整理し直す往復作業が必要である。

2.2. 分析枠組み——12の道徳原理

分析に用いる道徳原理の選定にあたっては、西洋政治哲学の規範的研究をベースとしつつ、道徳心理学の実証的研究で補完するアプローチをとった。まず、西洋政治哲学における標準的な体系 (Kymlicka, 2002) および世代間倫理の主要な議論 (Parfit, 1984; Gosseries, 2009; Scheffler, 2013) に基づき、主要な規範原理を抽出した。これらの西洋哲学由来の原理は、西洋社会の価値観に偏り、非西洋社会の伝統的な価値観を十分にカバーしていない可能性がある。そこで、道徳基盤理論の知見を参照し、西洋哲学の枠組みからは漏れ落ちやすい価値観を補完した。六つの基盤のうち、非西洋社会で重視されてきた結合基盤に関連する原理 (権威、清浄) を定式化し、リストに統合した。

こうして整理した12の原理を示すのが表1である。表では、道徳原理を道徳哲学の伝統的区

分 (Kant, 2012) に基づき、将来世代への危害を避ける「消極的義務」と、幸福や資源を提供する「積極的義務」に区分した。併せて、道徳基盤理とその辞書 (Graham et al., 2009) に基づき、個人の権利と福祉を重視する「個別化」と、集団の結束や秩序を重視する「結合」の基盤に区分したものを示した。なお、これら12原理は、分類軸上の組み合わせを埋めるものではなく、世代間倫理の文脈において重要となる主要な論点を、規範理論と心理学に基づいて抽出したものである。

表1. 道徳原理のリスト (内容、西洋哲学上の典拠、積極／消極義務への分類、道徳基盤理論上の位置づけ)

道徳原理 (略称)	内容	西洋哲学	積極／消極義務	道徳基盤
平等主義 (EG)	我々現在生きている人々は、我々と未来の人々の幸福の程度を等しくする必要がある。	Kymlicka 第3章 リベラルな平等	積極	個別化 (平等)
比例性 (PRO)	我々現在生きている人々は、未来の人々が正当な理由のない不利益を被ることがないようにする必要がある。	Kymlicka 第3章 リベラルな平等	消極	個別化 (比例性)
功利主義 (UT)	我々現在生きている人々は、我々と未来の人々の幸福の合計を最大にする必要がある。	Kymlicka 第2章 功利主義	積極	個別化 (比例性)
十分主義 (SUF)	我々現在生きている人々は、未来の人々が最低限満足できる程度の幸福は享受できるようにする必要がある。	Kymlicka 第2章 功利主義	積極	個別化 (比例性)
危害原則 (HP)	我々現在生きている人々は、自らが原因となって、未来の人々に危害を与えることを避ける必要がある。	Kymlicka 第9章 ケア	消極	個別化 (ケア)
利他主義 (ALT)	我々現在生きている人々は、未来の人々を愛し、彼らの幸福を増やす必要がある。	Kymlicka 第9章 ケア	積極	個別化 (ケア)
共同体主義 (COM)	我々現在生きている人々と、未来の人々は同じ共同体の一員であり、我々は、自分たちと同様に未来の人々の幸福も増進する必要がある。	Kymlicka 第6章 共同体主義	積極	結合 (忠誠)
間接互惠性 (INR)	我々現在生きている人々は、我々の祖先から文明や社会を引き継いでいる。我々はその文明や社会を発展させ、未来の人々に引き継ぐ必要がある。	Kymlicka 第6章 共同体主義; Gosseries	積極	結合 (忠誠)
承認 (REC)	我々現在生きている人間にとって、未来の人々から、我々の行為を正しく良いものであったと認めてもらうことは重要なことである。	Kymlicka 第6章 共同体主義	積極	結合 (忠誠)
世界の存続 (SUV)	我々現在生きている人々は、自らが原因となって、人類や文明が途絶えることがないようにする必要がある。	Parfit, Scheffler	消極	結合 (清浄)
権威 (AUT)	我々現在生きている人々は、ある権威を持つ存在から自然や社会の管理を委ねられている。我々はその自然や社会を適切に管理し、永く栄えるようにする必要がある。	N/A	積極	結合 (権威) 注 ²
清浄 (PUR)	我々現在生きている人間は、未来の人々の生きる自然や社会を清浄なものに保つ必要がある。	N/A	積極	結合 (清浄) 注 ²

注¹ KymlickaはKymlicka (2002)、GosseriesはGosseries (2009)、ParfitはParfit (1984)、SchefflerはScheffler (2013) をあらわす。注² 権威、清浄は各々、Graham et al. (2011)で、「権威への尊敬は全ての子どもが学ぶべきことである」、「清浄や品位の基準を破るかどうか (への関連性)」などとして説明されている。

理論的背景と先行研究に基づき、以下の仮説を設定する。世代間倫理自体について、その公共的受容性を測った先行研究は乏しく、仮説構築は比較文化心理学や道徳基盤理論に依存する。これらの心理学的知見との異同を検討することは、本研究の独自性を明確にする上で重要な焦点となる。

第一に、世代間倫理の認知構造についてである。道徳心理学は、複数の道徳基盤が独立したものではなく、一定の相関や階層構造を形成していることを示してきた。道徳基盤理論においては、個人の権利を重視する「個別化」と、集団の結束を重視する「結合」という二次元構造が反復的に確認されている (Graham et al., 2011)。世代間倫理においても、12の原理は無秩序に並立するのではなく、こうした潜在的な因子構造を持つと考えられる。そこで、以下の仮説 1 (H1) を提示する。

H1 (構造に関する仮説) :

12原理は独立して存在するのではなく、少なくとも「個別化」および「結合」の二因子の構造を形成する。

第二は、その構造に対する文化および個人属性による選好の相違についてである。文化差に関しては、道徳基盤理論において、西洋社会が個別化基盤を強く支持するのに対し、非西洋社会で結合基盤が優勢であることが示されてきた。個人属性については、加齢に伴い、人は伝統・社会秩序・宗教的規範に依拠するとされ (Baltes & Smith, 2003)、道徳基盤理論においても高齢層のほか、保守層でも結合基盤の支持が高いことが確認されている (Graham et al., 2009; Wolsko et al., 2016)。これらの知見に基づき、以下の仮説 2 (H2) を提示する。

H2 (文化・属性に関する仮説) :

H2a (文化差) :

先進国 (米・仏・日) では「個別化」に関連する原理の評価が高く、新興国 (中・印・UAE・南ア) では「結合」に関連する原理の評価が高い。

H2b (個人属性) :

高年齢層および保守層において、「結合」に関連する原理の評価が高い。

H2aは、道徳基盤理論における個別化/結合の区別に由来するものであり、ここではベンチマークとして含まれている。この枠組みがもともと想定していた「同一世代内での協力問題」とは、世代間の文脈とは性質が異なることを踏まえ、本研究ではH2aを強い予測としてではなく、暫定的な期待として扱う。

第三は、政策領域ごとの説得性についてである。抽象的な道徳原理への支持は、具体的な政策への支持に翻訳されるのか。先行研究は、政策への支持が道徳的フレーミングに依存することを示している。例えば、環境保護で保守派の支持を得るには、清浄基盤への訴求が効くとの指摘がある (Feinberg & Willer, 2013)。本研究では、課題の性質により有効な原理群が異なると仮定する。気候変動やAIなどの先端技術規制は人類存続に関わるため、防御的な「結合」系の原理が有効であると予想する。他方、財政は資源分配の問題であるため、分配の公平に関わる「個別化」系の原理が有効だと考える。以下の仮説 3 (H3) を提示する。

H3 (政策応用に関する仮説) :

H3a (存続課題) :

気候変動および先端技術においては、清浄 (PUR) や世界の存続 (SUV) といった、システムの保全に関わる「結合」系の原理が高い説得性を持つ。

H3b（分配課題）：

財政政策においては、平等（EG）、十分主義（SUF）などの分配の公平に関わる「個別化」系の原理が高い説得力を持つ。

2.3. サーベイ設計

調査概要と参加者

調査は2024年11月から2025年1月にかけて、アメリカ、フランス、日本、中国、インド、UAE、南アフリカの7か国において、Centiment社を通じてインターネット上で実施した。質問票は各国の公用語で作成した（補足資料の表S1を参照）。16歳以上の男女を対象とし、回答時間が極端に短い者（3分未満）や重複IPを除外した結果、3,619名の有効回答を得た（各国約500名、内訳と属性は補足資料の表S2を参照）。サンプリングは各国の人口構成（年齢・居住地）に準拠するよう努めたが、オンライン調査の性質上、新興国では実態より都市部および若年層の比率が高くなっている。ただし、以下の分析では、年齢および都市居住を統制し、主要な国別の結果はこれらの構成差のみでは説明されないことを確認していく。なお、全参加者に対して事前に研究目的を説明し、同意を得た上で調査をおこなった。

質問票の構成

サーベイ1（原理の受容性）で、参加者は、ランダムな順序で提示された12の道徳原理について、どの程度適切と感じるかを7段階リッカート尺度（0-6点）で評価した。各原理は名称（ラベル）を伏せ、回答者の理解を助ける平易な補足説明文を付して提示した。

サーベイ2（政策的説得性）では、気候変動（増税）、財政危機への対処（増税）、AIなどの先端技術のリスク管理（開発禁止）という3つの政策シナリオを提示した。政府が各原理を用いて政策を正当化していると想定してもらい、説得性を感じる原理を全て選択してもらった（複数回答可で「なし」も選択可）。シナリオおよび原理の提示順は個人ごとにランダム化した。また、各政策課題での回答理由について、自由記述による回答を求めた。

最後に、世代間問題についての意見を自由に記述してもらった。また、性別、年齢、教育水準、居住地、子供の有無、政治的イデオロギー（自分の政治観をどう記述するかを問い、「非常に保守／幾分保守／幾分リベラル／非常にリベラル／回答したくない」から選択。なお、中国では社会観として質問）、および人種（米・南アのみ）を聴取した。

3. 結果

3.1. 道徳原理の受容の全体的傾向

本節では、まず道徳原理への評価の全体傾向（記述統計）を示す。次に、探索的因子分析と多次元尺度構成法（MDS）により、世代間倫理の背後にある認知構造を検討する（H1）。さらに、その構造に基づく合成変数を用いて、国毎の文化差や個人属性の影響を回帰分析で検証

する（H2）。最後に、気候変動、財政、先端技術の各政策課題で、どの原理が説得力を持つかを分析する（H3）。

表2は、7か国での回答をプールしたグローバル及び各国での評価スコアの平均値により、原理を上位から配列したものである（補足資料の表S3のマジョリティ・ジャッジメントによる順位と整合しており、以下、平均値に基づき議論する）。グローバルサンプルは7か国の平均的傾向をみるものと解釈する。

全体的傾向として、先進国よりも新興国でスコアが高かった。H2a（文化差）については、「新興国で結合基盤が優勢である」という点では整合的だが、先進国においても、清浄（PUR）や世界の存続（SUV）などの結合基盤に属する原理が、平等主義（EG）などの個別化基盤を抑えて上位を占めている。そのためH2a（文化差）が成立しているとはいえない。このことは、世代間倫理の受容構造が、「個別化／結合」という既存の二項対立だけで説明しきれないことを示唆し、次節での詳細な構造分析の必要性を裏付ける。

表2. 道徳原理の順位（評価スコアの平均値による）

順位	グローバル		アメリカ		フランス		日本		中国		インド		UAE		南アフリカ	
	原理	評価	原理	評価	原理	評価	原理	評価	原理	評価	原理	評価	原理	評価	原理	評価
1	PUR	5.21	HP	4.95	PUR	5.18	PUR	4.68	PUR	5.28	PUR	5.39	PUR	5.49	PUR	5.51
2	HP	5.10	SUV	4.91	SUV	5.01	HP	4.65	ALT	5.22	ALT	5.31	HP	5.46	HP	5.46
3	SUV	5.06	ALT	4.88	HP	4.97	SUV	4.60	SUV	5.21	INR	5.29	REC	5.36	ALT	5.46
4	ALT	5.06	PUR	4.87	ALT	4.87	INR	4.54	INR	5.16	COM	5.26	INR	5.34	COM	5.36
5	INR	5.04	INR	4.82	INR	4.86	COM	4.42	COM	5.10	HP	5.22	ALT	5.29	AUT	5.27
6	COM	5.02	COM	4.82	COM	4.84	PRO	4.36	REC	5.06	AUT	5.18	AUT	5.29	SUV	5.27
7	REC	4.91	SUF	4.78	SUF	4.76	ALT	4.32	SUF	4.92	UT	5.17	SUV	5.25	INR	5.25
8	SUF	4.90	EG	4.72	UT	4.66	SUF	4.20	HP	4.90	REC	5.16	COM	5.24	REC	5.20
9	AUT	4.87	REC	4.69	REC	4.65	UT	4.19	UT	4.86	SUV	5.13	SUF	5.21	SUF	5.20
10	UT	4.84	AUT	4.67	AUT	4.60	AUT	4.17	AUT	4.84	SUF	5.13	PRO	5.19	UT	5.07
11	PRO	4.75	UT	4.65	EG	4.60	REC	4.15	EG	4.69	EG	5.06	UT	5.17	PRO	5.02
12	EG	4.71	PRO	4.47	PRO	4.54	EG	3.97	PRO	4.60	PRO	5.02	EG	5.05	EG	4.84
Avg.	4.96		4.77		4.79		4.35		4.99		5.19		5.28		5.24	
積極-消極	-0.02		-0.01		-0.06*		-0.25***		0.11***		0.09***		-0.03		-0.01	
個別化-結合	-0.13***		-0.06**		-0.12***		-0.15***		-0.24***		-0.08***		-0.10***		-0.14***	

注¹ EG：平等主義、PRO：比例性、UT：功利主義、SUF：十分主義、HP：危害原則、ALT：利他主義、COM：共同体主義、INR：間接互惠性、REC：承認、SUV：世界の存続、AUT：権威、PUR：清浄。注² 道徳原理の名称の右手に評価スコアの平均値を掲載した。注³ 各サンプルの平均回りの一標準偏差を上回るスコアを記録した原理に黄で着色し、一標準偏差を下回る原理に青で着色した。注⁴ Avg. 行は全12原理のスコアの平均。「積極-消極」の行は、積極義務のスコア（平均）から消極義務のスコア（平均）を控除したものの。「個別化-結合」の行は、個別化基盤のスコア（平均）から結合基盤のスコア（平均）を控除したものの。平均の差の検定を実施し、有意な差のある時、***1%有意、**5%有意、*10%有意とした。

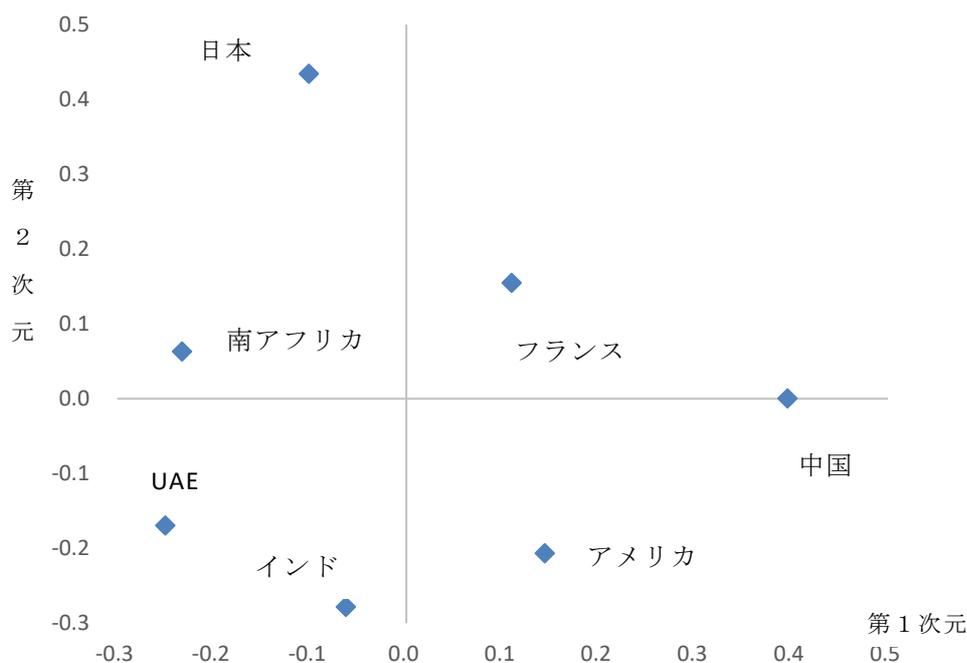
3.2. 世代間倫理の認知構造——「存続的正義」と「分配的正義」

道徳原理がどのような認知構造に基づくかを検証するため、探索的因子分析につづいて、多次元尺度構成法の結果を活用する。探索的因子分析は個人内共分散を捉えるが、本データでは「すべてが善い」という一般因子が強く、相対的な選好の差が埋もれやすい。そのため、本研究では、国別平均を中心化した上で、各国が「相対的に何を重視するか」という選好パターンの距離を多次元尺度構成法で可視化する。

まず、因子分析では、グローバルサンプルから多因子構造は抽出されなかった。このため、国・年齢層のセグメント毎の分析により因子を識別（固有値1以上、 α 値0.7以上）した結果が、補足資料の表S4である。「存続的正義」「分配的正義」と括ることのできる二因子が現れ、補足資料の表S5では、その二因子の要素として、各原理がどの頻度で出現したのか数え上げた。「存続的正義」の因子では、世界の存続（SUV）、危害原則（HP）などが上位に並び、「分配的正義」では、平等主義（EG）、権威（AUT）、十分主義（SUF）などが並ぶ。ただ、この発見はサンプル全体から見出したものではない。

このため、原理間の構造をより堅牢に検証するため、国ごとの回答パターンの類似性に基づく多次元尺度構成法を実施した（図1）。この分析は、回答パターンの類似性に基づき、国同士の距離を算出・配置する手法であり、現れた軸の意味は解釈に委ねられる。補足資料の表S6は、第1次元（横軸）、第2次元（縦軸）と12の原理との相関係数を示す。なお、中心化処理を行っているため、この配置は、全体的なスコアの高低ではなく、「どの原理を他よりも優先するか」という選好パターンの質的な違いを反映している。

図1. 道徳原理への各国の評価に基づく多次元尺度構成法（MDS）（ユークリッド距離）



注 国間の距離をユークリッド距離により算出、metric MDS を用いて2次元に布置した（Stress-1=0.186）。

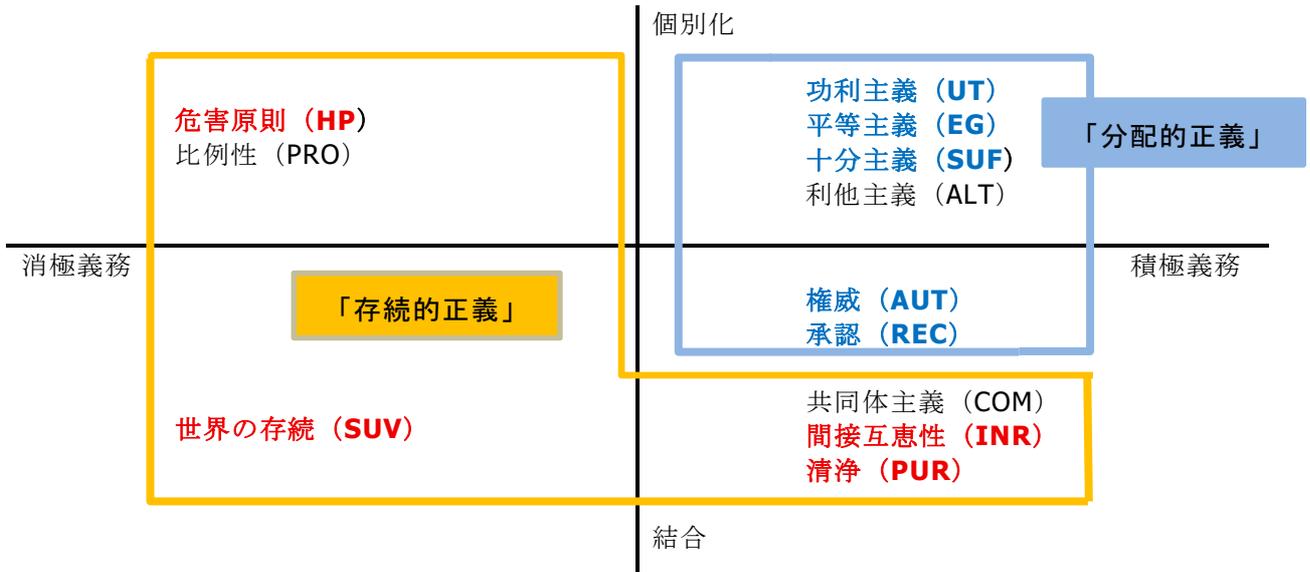
図1の配置を検討すると、第1次元は、正方向にあるアメリカ、フランス、中国といった西洋等と負方向の南西アジア等を分かち一般的な文化的距離をあらわすと解釈できる（中国の都市部住人の西洋への近接は道徳基盤理論でもたびたび確認されている。Graham et al., 2011; Atari et al., 2023）。しかし、本研究の文脈でより重要な示唆を与えるのは第2次元である。この次元に着目すると、国の違いを生む主題として二つの主題が浮かび上がり、その主題は因子分析が断片的に示唆した二つの主題とも整合的である。具体的には、第2次元の正方向にある日本では、危害原則（HP）、世界の存続（SUV）、清浄（PUR）などを強く支持し、他方、下方に位置するインドやUAEなどでは、これらに加えて、功利主義（UT）、権威（AUT）なども相対的に強く支持している。

多次元尺度構成法の第2次元を解釈するため、その次元と12の原則との相関関係を検討した（補足資料の表S6）。この次元と正の相関を示す原則——清浄（PUR）、世界の存続（SUV）、危害原則（HP）、間接的互惠性（INR）——は、不可逆的な被害の防止や、団体の持続可能性のための条件維持の関心に集まっている。本研究ではこのクラスターを「存続的正義」と呼ぶ。対照的に、負の相関を示す原則——功利主義（UT）、平等主義（EG）、権威（AUT）、十分主義（SUF）、承認（REC）——は、分配ルール（世代間で利益と負担をいかに割り当てるべきか）や、それらのルールを正当化し維持するための制度的・社会的条件（例：正当性や承認）の周囲に集まっている。我々はこのクラスターを「分配的正義」と呼ぶ。比例性（PRO）、共同体主義（COM）、利他主義（ALT）は、第2次元との関連が弱い、あるいは混在しており、複数の因子にまたがって負荷量を示している。これは、これらが文脈に応じていずれのテーマを支持する際にも動員される橋渡しの原則として機能し得ることを示唆している。透明性を確保するため、表S6に報告したスコアにおいてはこれらを実証的な配置のままに留めるが、解釈においては、特定のテーマに限定されるものではなく概念的な橋渡し役であるとみなす。本研究全体を通じ、「分配的正義」を広い意味で使用する。それは単なる分配原則（平等、効用、充足）だけでなく、ある分配の取り決めを共通の社会ルールたらしめる制度的正当性や社会的承認（ここでは「権威」と「承認」がそれに該当する）をも包含するものである。

この結果は、世代間倫理が単一ではなく、明確な二層構造を持つことを支持する。ただ、仮説H1が予測した「個別化／結合」という道徳基盤理論の枠組みとは一致せず、世代間問題に特有の認知枠組みがあることを示している（H1の修正的支持）。図2は「存続的正義」「分配的正義」と既存の枠組みとの関係を示したものである。

この発見に基づき、二因子の α 値を国毎に求めると、「存続的正義」で0.72～0.90、「分配的正義」で0.73～0.87の間に収まり、因子として十分な内的整合性が確認された。また、「存続的正義」内の相関（ $r=0.14$ ）、「分配的正義」内の原理の相関（ $r=0.30$ ）は、両因子間の相関（ $r=-0.33$ ）よりも高く、このことも二つの主題で世代間倫理が割れていることを示す。以降の分析では、これら各主題に属する原理の平均値を合成変数として用いる。

図2. 「存続的正義」「分配的正義」と既存の枠組み



注) 「存続的正義」「分配的正義」との相関の高い原理を、それぞれ赤、青で着色した(相関係数は、補足資料の表S6を参照のこと)。

3.3. 文化および個人属性による規定要因

前節で特定された「存続的正義」「分配的正義」という二つの倫理的次元が、文化や個人属性とどう関係付けられているかを検証するため、サーベイ1への回答について、二つの合成変数を被説明変数とする回帰分析を行った(従属変数が0からの6の限界を持つため、Tobitモデルを適用)。説明変数には、国ダミー(基準国:アメリカ)、および年齢、性別、イデオロギー等の個人属性を投入した。結果は表3の通りである(補足資料の表S7に各国毎の分析、表S8に12原理毎の分析結果を掲載した)。

表3. 道徳原理への評価と文化、個人属性との関係 (Tobit, グローバルサンプル)

	「存続的正義」	「分配的正義」
性別 (女性=1)	-0.0629* (-0.0514)	-0.0284 (-0.0242)
年齢 (一歳刻み)	0.0047*** (0.0039)	0.0029** (0.0025)
大卒以上	0.0116 (0.0094)	-0.0188 (-0.0160)
都市居住	0.1372*** (0.1120)	0.1582*** (0.1349)
子どもあり	0.0960*** (0.0784)	0.2066*** (0.1762)
イデオロギー (保守=1)	-0.0563* (-0.0459)	-0.0246 (-0.0211)
フランス	0.0423 (0.0345)	-0.1029* (-0.0878)
日本	-0.2851*** (-0.2327)	-0.5778*** (-0.4928)
中国	0.1778 (0.1451)	0.0904 (0.0771)
インド	0.4366*** (0.3564)	0.4355*** (0.3715)
UAE	0.5686*** (0.4641)	0.4891*** (0.4172)
南アフリカ	0.6062*** (0.4948)	0.4718*** (0.4024)
定数	4.5823***	4.4971***
Pseudo R2	0.0401	0.0596

注¹ *** 1% 有意、** 5% 有意、* 10% 有意。注² 係数の下の括弧内は限界効果。正に有意の係数にはオレンジ、負に有意の係数に青で着色。

文化による相違 (H2aの検証) については、インド、UAE、南アフリカといった新興国で、基準国 (アメリカ) と比較して有意に高い正の係数が示された。中国では係数は正であるものの、有意ではなかった。フランスで「分配的正義」、日本で「存続的正義」「分配的正義」の双方で有意に低い負の係数を確認した。日本での「分配的正義」へのとりわけ評価は低く、アメリカに比べ、「存続的正義」では約0.23ポイント低い、「分配的正義」では約0.49ポイントも低くなる。

これは、新興国において、パイの拡大や制度構築に関わる「分配的正義」の倫理が強く希求されていることを示唆する。他方、「存続的正義」については、新興国において「分配的正義」と同様に高い支持がみられたことに加え、日本やフランスでも「分配的正義」に比べ、高い評価が維持されている。これらを総合すると、仮説H2a (先進国=個別化優位、新興国=結合優位) は、「存続的正義」「分配的正義」の二主題の枠組みに引き直しても、単純な二項対立としては支持されていない。むしろ、新興国は双方の倫理を支持する「全方位型」であるのに対し、日本のような成熟社会では「分配的正義」への関心が薄れ、「存続的正義」へと倫理

的関心が純化していく「特化型」の傾向がみられる。このような国の違いは、年齢、学歴や都市居住などを統制しても現れており、人口構成の違いには還元できない（補足資料の表S9は年齢層毎の二つの主題の評価の差分（特化度）を示し、表S10は二主題の差分（特化度）を従属変数とする回帰分析の結果を示す。いずれも、人口構成を制御しても、日本、つづいてフランスの特化度が他国より高いことを示す）。また、所得についても、学歴という代理的指標の制御により対応しており、主要な結論は維持される。

個人属性（H2bの検証）については、年齢の高い層ほど「存続的正義」「分配的正義」のいずれの主題も高く評価する傾向を確認した。加齢に伴い、人は伝統・社会秩序・宗教的規範に依拠しやすいとする先行研究と整合的な結果であるが、年齢の効果は特定の道徳基盤に限らず、世代間倫理全体に及ぶ。イデオロギーについては、保守的な回答者ほど「存続的正義」への評価が下がる傾向を見出したが、「分配的正義」では関連はなかった。アメリカに限った分析でもイデオロギーとの関連は出ていない（表S7）。道徳基盤理論が指摘してきたイデオロギー間での道徳選好の差異は、世代間倫理の文脈ではさほど強くないことが示唆されている（補足資料の表S17のサーベイ参加者の自由回答の分析でも、イデオロギーは回答に影響を与えていない）。その他の属性では、都市居住、子どもを持つことが、世代間倫理全体への評価を高めていることも興味深い発見である。

3.4. 政策課題における説得性

つづいて、具体的な政策課題（気候変動、財政、先端技術）で、どの原理が説得力を持つかを検証する（H3の検証、サーベイ2）。本研究は政策の適否自体に特段の立場を持つわけではなく、政策受容の切り口として、どの道徳的議論が効くかをみるものである。表4は、グローバルサンプルで、各政策で説得力ありとして選択された原理の比率を示したものである。「存続的正義」「分配的正義」の欄で、これらに属する原理の選択割合の平均を集計した（補足資料の表S11で各国の選択状況、表S12で文化・属性への回帰分析の結果を示した）。

気候変動および技術規制という「存続に関わる課題」では、危害原則（HP）や世界の存続（SUV）など「存続的正義」の主題が、「分配的正義」よりも強い説得力を持ち、仮説H3a（存続問題）は概ね支持された。ただし、気候変動で清浄（PUR）の説得力は高いものの、技術規制では中程度にとどまり、政策課題毎に原理との相性の相違があることも見出された。

財政は一見すると分配問題であり、平等主義や十分主義といった分配の公平に関わる原理が前面化すると予想した（H3b、分配課題）。たしかに気候変動や技術に比べ、「存続的正義」への支持は後退している。しかし、選択されたのは、財政でも依然として、危害原則（HP）や比例性（PRO）など「存続的正義」の原理であった（H3bの不支持）。財政でこれらの原理が支持されたことは、人々が財政問題を社会の破綻回避という「存続的正義」の課題として認知していることを示唆する。単に公平な分配を掲げるだけでは、増税への合意を得ることは難しい。破綻回避の目的を共有の上、その目的のための負担を「受益・能力・責任に応じた負担（比例性）」として説明することが、財政政策の説得性を効果的に高める。

表4. 説得的原理の選択割合（複数回答可）（グローバルサンプル）

	「存続的正義」	「分配的正義」	説得的原理なし
気候	0.310	0.257	0.092
財政	0.287	0.254	0.133
技術	0.308	0.248	0.112

	EG	PRO	UT	SUF	HP	ALT	COM	INR	REC	SUV	AUT	PUR
気候	0.230	0.275	0.232	0.251	0.339	0.259	0.266	0.291	0.254	0.322	0.316	0.369
財政	0.235	0.294	0.255	0.272	0.301	0.260	0.273	0.293	0.252	0.281	0.248	0.277
技術	0.217	0.299	0.236	0.247	0.359	0.252	0.262	0.304	0.256	0.329	0.278	0.295

注¹ EG：平等主義、PRO：比例性、UT：功利主義、SUF：十分主義、HP：危害原則、ALT：利他主義、COM：共同体主義、INR：間接互惠性、REC：承認、SUV：世界の存続、AUT：権威、PUR：清浄、NON：説得的な原理はない。注² 説得的であると回答した者が12道徳原理平均より1標準偏差以上大きい原理を黄、1標準偏差以下小さい原理を青で着色した。

最後に、サーベイ2で「説得的原理なし」を選択した人々について考える必要がある。本研究では、その選択理由に関する自由記述について、コーディングルールに基づいて、どのような意見が表明されているか分析した。コーディングルールは複数の外部の第三者による語の選定によって作成したもので、カテゴリーに属する語の出現頻度を算出するのに用いた（補足資料の表S13に、コーディングルールとその作成要領を掲載）。興味深いことは、「説得的原理なし」とした者の間で、「増税」「禁止」などの政策手段への言及が顕著にみられたことである。表5は、気候変動に関する分析結果である（財政、技術については補足資料の表S14に掲載）。彼らの多くがサーベイ1で原理自体には肯定的評価（中央値4以上）を与えており（表S15）、このことを踏まえると、説得への障壁は「倫理の欠如」よりも、むしろ「手段への拒絶」にあることが明らかになる。

表5. サーベイ 2 への回答理由（コーディングルールに該当する語の使用者の割合）

カテゴリー	説得的原理あり	説得的原理なし	合計	カイ二乗
将来世代/子ども	967 (29.4%)	22 (6.6%)	989 (27.3%)	77.734***
人類/地球/生存	750 (22.8%)	29 (8.7%)	779 (21.5%)	34.572***
遺産/持続可能性	135 (4.1%)	4 (1.2%)	139 (3.8%)	6.114**
危害/危険	352 (10.7%)	16 (4.8%)	368 (10.2%)	10.815***
ケア/保護	596 (18.1%)	16 (4.8%)	612 (16.9%)	37.093***
幸福/機会	184 (5.6%)	6 (1.8%)	190 (5.3%)	7.965***
正義/責任	207 (6.3%)	10 (3.0%)	217 (6.0%)	5.207**
清浄/汚濁	174 (5.3%)	10 (3.0%)	184 (5.1%)	2.797*
平和/調和	36 (1.1%)	1 (0.3%)	37 (1.0%)	1.176
共同体/家族	20 (0.6%)	1 (0.3%)	21 (0.6%)	0.105
経済	30 (0.9%)	16 (4.8%)	46 (1.3%)	33.625***
技術	19 (0.6%)	1 (0.3%)	20 (0.6%)	0.068
税	85 (2.6%)	60 (18.1%)	145 (4.0%)	184.025***
政府	57 (1.7%)	20 (6.0%)	77(2.1%)	24.630***
回答者数	3287 (100.0%)	332 (100.0%)	3619 (100.0%)	

注¹ 説得的原理ありとした者、なしとした者のいずれかで、回答者の割合の有意に多いカテゴリーのある時、「あり」か「なし」の欄の多い方にオレンジで着色した。注² *** 1% 有意、** 5% 有意、* 10% 有意。

4. 討議

4.1 世代間倫理の二層構造——「中核」としての「存続的正義」、「外縁」としての「分配的正義」

これまでの分析は、世代間倫理が道徳基盤理論の想定する「個別化／結合」という単純な対立構造ではないことを示した。多次元尺度構成法や回帰分析が一貫して支持したのは、世代間倫理が、普遍的な「中核（Core）」をなす「存続的正義」と、文脈に依存する「外縁（Extension）」である「分配的正義」という、二つの層によって構成されていることである。

表6は、二つの層に属する道徳原理が7か国でどのように評価（サーベイ1）されているかを示している。「存続的正義」の主題は総じて高く評価されているだけでなく、どの国も一致して高い評価を与えている（低分散）。「分配的正義」の主題では、日本やフランスのようにスコアの低い国があり、評価にはばらつきがみられる。「存続的正義」は、危害回避や自然の清浄さを志向する防御的な倫理であり、文化や発展段階を問わず、全ての調査対象国において一貫して高い支持を得ている。世界中どこでも、人類共通の直感として、「滅亡させない」「汚さない」ことの重要性は否定しようがない。対照的に、「分配的正義」は、世代間の分配の公平やその正統化のための制度構築的な倫理であり、その支持は一様ではない。この層は、社会が成長とその成果の配分を希求する局面では活発に働くが、社会が成熟し、成長の限界や課題の複雑化に直面すると、その求心力を失う傾向にある。

表6. 「存続的正義」「分配的正義」に属する道徳原理への評価スコアの7か国平均・分散

存続的正義	存続的正義平均	PUR	SUV	INR	HP	PRO	COM
平均	5.02	5.20	5.06	5.04	5.09	4.74	5.01
分散	0.079	0.085	0.049	0.077	0.079	0.091	0.094
分配的正義	分配的正義平均	ALT	REC	SUF	AUT	EG	UT
平均	4.87	5.05	4.89	4.88	4.86	4.70	4.83
分散	0.128	0.132	0.151	0.109	0.149	0.117	0.110

注¹ EG：平等主義、PRO：比例性、UT：功利主義、SUF：十分主義、HP：危害原則、ALT：利他主義、COM：共同体主義、INR：間接互惠性、REC：承認、SUV：世界の存続、AUT：権威、PUR：清浄。注² 「存続的正義」の原理のうち、正の相関係数の高い原理をPURからCOMまで降順に並べ、「分配的正義」の原理については、負の相関係数の小さいALTからUTまで降順に並べた。注³ 12原理の平均・分散の平均(4.95, 0.104)よりも大きな数値をオレンジで着色した。

4.2 発展段階と倫理的関心の変容

この中核と外縁のダイナミズムは、各国の発展段階に応じた倫理的選好の差異を鮮やかに説明する。新興国では「存続的正義」「分配的正義」の双方が強く支持されている。これは、生存基盤の確立と継承と、経済的繁栄や権利の配分と管理という二つのエンジンが同時に駆動している状態と解釈できる。一方、社会の成熟化が進んだ先行例として日本、つづいてフランスを挙げることができる（補足資料の表S16に示す通り、日本やフランスでは、中央値年齢が高く、今後の人口増加率が低い）。これらの国では、「存続的正義」への特化がとりわけ大きい。重要なことは、この特化が単に高齢者の比率が高いことにより生じているのではなく、年齢を統制しても差が出ることである。成熟し、縮小する社会では、若年層を含む人々が、将来の拡大よりも破綻回避や存続可能性を前提として判断する社会的時間条件を共有しており、その結果として「存続的正義」の主題が世代横断的に前面化すると解釈できる。

自由記述の語彙分布も、このパターンと整合する。表7が示すように、新興国では「幸福・機会」の言及が中国14.7%、南アフリカ11.5%と、先進国（米6.3%、日7.6%）より高い。加えて、中国の「ケア・保護」（26.3%）、南アフリカの「正義・責任」（9.5%）などが目立ち、新興国で「分配的正義」の主題が立ち上がりやすいという定量分析の結果を語彙レベルで補助する。「技術」への言及もUAE（9.9%）、インド（8.2%）で目立ち、社会発展や技術革新への期待が倫理観に色濃く反映されている（補足資料の表S17に、国以外の切り口による自由回答の分析結果を掲載した）。

表7. 国による自由回答の特徴（コーディングルールによる分析）

国	アメリカ	フランス	日本	中国	インド
将来世代/子ども	217 (43.9%)	179 (33.8%)	196 (40.2%)	244 (49.0%)	218 (40.6%)
人類/地球/生存	104 (21.1%)	138 (26.0%)	79 (16.2%)	66 (13.3%)	85 (15.8%)
遺産/持続可能性	27 (5.5%)	30 (5.7%)	22 (4.5%)	72 (14.5%)	59 (11.00%)
危害/危険	33 (6.7%)	32 (6.0%)	33 (6.8%)	37 (7.4%)	35 (6.5%)
ケア/保護	81 (16.4%)	81 (15.3%)	56 (11.5%)	131 (26.3%)	102 (19.0%)
幸福/機会	31 (6.3%)	39 (7.4%)	37 (7.6%)	73 (14.7%)	57 (10.6%)
正義/責任	33 (6.7%)	32 (6.0%)	21 (4.3%)	41 (8.2%)	44 (8.2%)
清浄/汚濁	23 (4.7%)	34 (6.4%)	3 (0.6%)	30 (6.0%)	27 (5.0%)
平和/調和	11 (2.2%)	15 (2.8%)	22 (4.5%)	32 (6.4%)	22 (4.1%)
共同体/家族	9 (1.8%)	1 (0.2%)	2 (0.4%)	3 (0.6%)	8 (1.5%)
経済	17 (3.4%)	17 (3.2%)	8 (1.6%)	18 (3.6%)	22 (4.1%)
技術	26 (5.3%)	12 (2.3%)	8 (1.6%)	23 (4.6%)	44 (8.2%)
税	4 (0.8%)	0 (0.0%)	3 (0.6%)	1 (0.2%)	2 (0.4%)
禁止	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.2%)
政府	13 (2.6%)	2 (0.4%)	3 (0.6%)	1 (0.2%)	6 (1.1%)
回答者	494 (100.0%)	530 (100.0%)	488 (100.0%)	498 (100.0%)	537 (100.0%)

UAE	南アフリカ	合計	カイ二乗	カテゴリー
253 (48.1%)	306 (56.0%)	1613 (44.6%)	68.052***	将来世代/子ども
67 (12.7%)	154 (28.2%)	693 (19.2%)	78.058***	人類/地球/生存
62 (11.8%)	61 (11.2%)	333 (9.2%)	54.338***	遺産/持続可能性
26 (4.9%)	69 (12.6%)	265 (7.3%)	29.452***	危害/危険
92 (17.5%)	125 (22.9%)	668 (18.5%)	48.695***	ケア/保護
50 (9.5%)	63 (11.5%)	350 (9.7%)	29.127***	幸福/機会
35 (6.7%)	52 (9.5%)	258 (7.1%)	13.734**	正義/責任
14 (2.7%)	19 (3.5%)	150 (4.1%)	31.508***	清浄/汚濁
15 (2.9%)	24 (4.4%)	141 (3.9%)	16.238**	平和/調和
3 (0.6%)	5 (0.9%)	31 (0.9%)	12.795**	共同体/家族
13 (2.5%)	29 (5.3%)	124 (3.4%)	12.882**	経済
52 (9.9%)	50 (9.2%)	215 (5.9%)	60.582***	技術
1 (0.2%)	5 (0.9%)	16 (0.4%)	8.460	税
1 (0.2%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	4.812	禁止
3 (0.6%)	12 (2.2%)	40 (1.1%)	25.239***	政府
526 (100.0%)	546 (100.0%)	3619 (100.0%)		回答者

注1 各カテゴリーへの言及の比率の高い国の上位2カ国に着色した（ただし、カイ二乗検定が有意で、かつ比率が3%以上のものに限る）。注2 *** 1% 有意、** 5% 有意、* 10% 有意。

4.3. 政策的含意——市民と生活者の架橋

最後に、政策の説得における原理と手段の乖離について考察する。本研究は、気候変動や技術という存続に直結する課題にとどまらず、財政という分配問題においてさえ、人々が破綻回避（「存続的正義」）の主題の方に反応しやすいことを明らかにした。このように反応の良い道徳的議論を説得に用いることが、政策の実装に近づくひとつの道筋である。

ただし、原理の提示は、政策の受容の十分条件ではない。「説得的原理なし」とした人々の分析は、彼らの間で、倫理観の欠如というよりも、炭素税、財政健全化のための増税、AI開発の禁止といった政策手段に対する反発から、説得を受容しない場合があることを示唆する。その素地には、人々のうちに二つの面——正義を希求する市民、生活を全うするための利害を持つ生活者——が並存しているという事実がある。先行研究でも、財政政策の選択肢（負担の先送り／世代間の公平）を提示した際、負担内容を具体的にみせるほど、負担の先送りへの選好が強まったことが示されている（Hiromitsu, 2019, 2024b）。

このように考えると、世代間正義の実装には、二段構えの戦略が不可欠であることがわかる。はじめに、「存続的正義」の原理を到達すべき目標として提示し、人々の市民としての関心を喚起することである。その上で、市民としての倫理観だけに頼らず、移行措置（段階導入、補完策）と負担配分を同時に示し、生活者としての抵抗感を具体的な合意へと接続することである。

5. 結論

本研究は世代間倫理の受容構造を文化横断的に検証し、それが「存続的正義」を「中核」とし、「分配的正義」を文脈依存的な「外縁」とする二層構造を持つことを明らかにした。この知見は、成熟社会における世代間問題の難しさについて有用な視座を与える。成熟社会では、「このままでは破綻する」という防御的動機に人々の関心が収斂している。世代間正義の語彙は広がり欠き、正義を訴える声の人々の心に響いていない可能性がある。世代間問題における合意形成の停滞は、単なる市民の倫理的欠如ではなく、こうした訴求のミスマッチに起因する面もあると考えられる。

政策の実装に関しては、市民が抱く「原理の受容」と「具体的手段への拒絶」の乖離が浮き彫りとなった。抽象的な合意を得るだけでは不十分で、市民モードと生活者モードを架橋するアプローチが不可欠である。二段構えの戦略の実践に際しては、ナッジなどの政策工学の活用にとどまらず、熟議を通じて政策への市民的理解を深めることが重要である。例えば、「フューチャー・デザイン」では、仮想の将来世代との熟議という、工学と民主政治のハイブリッドな方法論が提案されており（Saijo, 2025）、その開発と実装が期待されている。

本研究には限界と課題が残されている。第一は、因果関係の特定である。本研究の目的は、人々が頭の中で世代間問題において何を正しいことと感じているかを把握することにあつた。今後、政策志向を強める上では、道徳原理が行動を促す力を評価する必要がある、インセンティブの付与などの実験的設定を試みる余地がある。第二は、世代間倫理の理論的研究を深化させることである。正義論においては、個人間の権利義務、自由や分配の議論に比べ、「存続的正義」概念にはいまだ検討の余地が大きい。ヒト・モノや関係性の束を保持し、継承することを正義論にどう位置付け、洗練させていくか、規範理論における重要な課題である。

以上の課題は残るものの、本研究が提示した二層構造モデルと政策への指針は、持続可能な

未来に向けた合意形成のあり方を考察する上で、現実的かつ強固な足がかりを提供するものである。

参考文献:

- Atari, M., Haidt, J., Graham, J., Koleva, S., Stevens, S. T., & Dehghani, M. (2023). Morality beyond the WEIRD: How the nomological network of morality varies across cultures. *Journal of Personality and Social Psychology*, 125(5), 1157–1188. <https://doi.org/10.1037/pspp0000470>
- Baltes, P. B., & Smith, J. (2003). New frontiers in the future of aging: From successful aging of the young old to the dilemmas of the fourth age. *Gerontology*, 49(2), 123–135.
- Feinberg, M., & Willer, R. (2013). The moral roots of environmental attitudes. *Psychological Science*, 24(1), 56–62. <https://doi.org/10.1177/0956797612449177>.
- Gosseries, A. (2009). Three models of intergenerational reciprocity. In A. Gosseries & L. H. Meyer (Eds.), *Intergenerational justice* (pp. 119–146). Oxford University Press.
- Gosseries, A., & Meyer, L. H. (Eds.). (2009). *Intergenerational justice*. Oxford University Press.
- Graham, J., Haidt, J., & Nosek, B. A. (2009). Liberals and conservatives rely on different sets of moral foundations. *Journal of Personality and Social Psychology*, 96(5), 1029–1046. <https://doi.org/10.1037/a0015141>.
- Graham, J., Haidt, J., Nosek, B. A., Iyer, R., Koleva, S., & Ditto, P. H. (2011). Mapping the moral domain. *Journal of Personality and Social Psychology*, 101(2), 366–385. <https://doi.org/10.1037/a0021847>.
- Gupta, J., Liverman, D., Prodani, K., Aldunce, P., Bai, X., Broadgate, W., ... Verburg, P. H. (2023). Earth system justice needed to identify and live within Earth system boundaries. *Nature Sustainability*, 6(6), 630–638. <https://doi.org/10.1038/s41893-023-01064-1>.
- Haidt, J. (2012). *The righteous mind: Why good people are divided by politics and religion*. Pantheon Books.
- Haidt, J., & Joseph, C. (2004). Intuitive ethics: How innately prepared intuitions generate culturally variable virtues. *Daedalus*, 133(4), 55–66. <https://doi.org/10.1162/0011526042365555>.
- Henrich, J., Heine, S. J., & Norenzayan, A. (2010). The weirdest people in the world? *Behavioral and Brain Sciences*, 33(2–3), 61–83. <https://doi.org/10.1017/S0140525X0999152X>.
- Hirimitsu, T. (2019). Consideration of keys to solving problems in long-term fiscal policy through laboratory research. *International Journal of Economic Policy Studies*, 13(2), 195–221.
- Hirimitsu, T. (2024a) The role of moral principles in resolving intergenerational conflicts: Moral persuasion in a global survey. *Politics and Governance*, 12(1), 171–190. <https://doi.org/10.17645/pag.v12i1.7284>
- Hirimitsu, T. (2024b). Resolving intergenerational conflicts: an approach from philosophy,

- economics, and experiments. Springer (廣光俊昭, 2022. 『哲学と経済学から解く世代間問題 経済実験に基づく考察』 日本評論社) .
- Hurlstone, M., Price, A., Wang, S., Leviston, Z., & Walker, I. (2020). Activating the legacy motive mitigates intergenerational discounting in the climate game. *Global Environmental Change*, 60, Article 102008.
- Inoue, Y., Kumazawa, T., Nohara, S., Yagi, N., & Saijo, T. (2021). Is a discount rate ethically justifiable? Climate injustice and intergenerational equity. *Nature Sustainability*, 4, 658–666.
- Kant, I. (2012). *Groundwork of the metaphysics of morals* (M. Gregor & J. Timmermann, Eds.; M. Gregor, Trans.). Cambridge University Press. (Original work published 1785).
- Kymlicka, W. (2002). *Contemporary political philosophy: An introduction* (2nd ed.). Oxford University Press.
- Nisbett, N., & Spaiser, V. (2023). How convincing are AI-generated moral arguments for climate action? *Frontiers in Climate*, 5, 1193350. <https://doi.org/10.3389/fclim.2023.1193350>.
- Parfit, D. (1984). *Reasons and persons*. Oxford University Press.
- Saijo, T. (2025). *Future design for creating a world worth inheriting*. Springer.
- Scheffler, S. (2013). *Death and the afterlife*. Oxford University Press.
- Tremmel, J. C. (Ed.). (2006). *Handbook of intergenerational justice*. Edward Elgar Publishing.
- Wolsko, C., Ariceaga, H., & Seiden, J. (2016). Red, white, and blue enough to be green: Effects of moral framing on climate change attitudes and conservation behaviors. *Journal of Experimental Social Psychology*, 65, 7–19.
- The United Nations (2024) World Population Prospects 2024.
- Zhang, M. (2018). Intergenerational justice and solidarity on sustainability in China: A case study in Nanjing, Yangtze River Delta. *Sustainability*. 10, 4296.

補足資料

表S1. 質問票（抄）

現在生きている我々と未来に生きる人々は、時間によって隔てられ、直接会話を交わすことや、同じテーブルを囲んで社会的決定を行うことはできません。しかし、我々と未来の人々は隔絶した別の惑星に住んでいるわけではなく、我々の行動は、時を隔てて、未来の人々に良い影響を与えることもあれば、悪い影響を与えることもあります。

このような状況を念頭においた上で、以降の問いに答えてください。

問1 下記の見解について、以下の質問に答えてください。

見解：「我々現在生きている人々は、我々と未来の人々の幸福の程度を等しくする必要がある。」

補足説明：我々の感じる幸福、未来の人々の感じるであろう幸福が計測できるものとし、その上で、この見解は、我々の幸福と未来の人々の幸福が、同程度の水準になることを目指して、我々が振る舞うことを求めています。

上記の見解についてのあなたの意見にもっとも近いものを、下記のなかからひとつ選んでください。

1. 非常に適切なものである
2. 適切なものである
3. やや適切なものである
4. どちらともいえない
5. やや不適切なものである
6. 不適切なものである
7. 非常に不適切なものである

問2 下記の見解について、以下の質問に答えてください。

見解：「我々現在生きている人々は、未来の人々が正当な理由のない不利益を被ることがないようにする必要がある。」

補足説明：この見解は、努力する人や注意深い人に良い出来事が起きることが望ましく、怠惰、不注意な人に悪い出来事が起こることはやむをえないと考えています。この見解は、何も悪いことをしていない未来の人々の身に悪い出来事が起きることがないように、我々が振る舞うことを求めています。

上記の見解についてのあなたの意見にもっとも近いものを、下記のなかからひとつ選んでください。

1. 非常に適切なものである
2. 適切なものである
3. やや適切なものである
4. どちらともいえない
5. やや不適切なものである
6. 不適切なものである
7. 非常に不適切なものである

問3 下記の見解について、以下の質問に答えてください。

見解：「我々現在生きている人々は、我々と未来の人々の幸福の合計を最大にする必要がある。」

補足説明：我々の感じる幸福、未来の人々の感じるであろう幸福を合計できるものとします。その上で、この見解は、この合計を最も大きくすることを目指して、我々が振る舞うことを求めています。

上記の見解についてのあなたの意見にもっとも近いものを、下記のなかからひとつ選んでください。

1. 非常に適切なものである
2. 適切なものである
3. やや適切なものである
4. どちらともいえない
5. やや不適切なものである
6. 不適切なものである
7. 非常に不適切なものである

問4 下記の見解について、以下の質問に答えてください。

見解：「我々現在生きている人々は、未来の人々が最低限満足できる程度の幸福は享受できるようにする必要がある。」

補足説明：未来の人々の感じるであろう幸福が計測できるものとします。その上で、この見解は、未来の人々の幸福として、少なくとも一定のほどほどの幸福は確保することを目指して、我々が振る舞うことを求めています。

上記の見解についてのあなたの意見にもっとも近いものを、下記のなかからひとつ選んでください。

1. 非常に適切なものである
2. 適切なものである
3. やや適切なものである
4. どちらともいえない
5. やや不適切なものである
6. 不適切なものである
7. 非常に不適切なものである

問5 下記の見解について、以下の質問に答えてください。

見解：「我々現在生きている人々は、自らが原因となって、未来の人々に危害を与えることを避ける必要がある。」

補足説明：我々の行いは未来の人々によい影響を与えることもあれば、悪い影響を与えることもあります。その上で、この見解は、我々の行いが未来の人々に危害を与えたとみなしうるほどの悪い影響を与えることのないよう、我々が振る舞うことを求めています。

上記の見解についてのあなたの意見にもっとも近いものを、下記のなかからひとつ選んでください。

1. 非常に適切なものである
2. 適切なものである
3. やや適切なものである
4. どちらともいえない
5. やや不適切なものである
6. 不適切なものである
7. 非常に不適切なものである

問6 下記の見解について、以下の質問に教えてください。

見解：「我々現在生きている人々は、未来の人々を愛し、彼らの幸福を増やす必要がある。」

補足説明：我々の行いは未来の人々により影響を与えることもあれば、悪い影響を与えることもあります。この見解は、未来の人々により影響を与え、彼らの幸福を増進することを目指して、我々が振る舞うことを求めています。

上記の見解についてのあなたの意見にもっとも近いものを、下記のなかからひとつ選んでください。

1. 非常に適切なものである
2. 適切なものである
3. やや適切なものである
4. どちらともいえない
5. やや不適切なものである
6. 不適切なものである
7. 非常に不適切なものである

問7 下記の見解について、以下の質問に教えてください。

見解：「我々現在生きている人々と、未来の人々は同じ共同体の一員であり、我々は、自分たちと同様に未来の人々の幸福も増進する必要がある。」

補足説明：この見解は、我々と未来の人々は、社会などの同じ共同体に属しているという認識に基づいています。この見解は、自分たちの幸福のみならず、未来の人々の幸福もともに増進することを目指して、我々が振る舞うことを求めています。

上記の見解についてのあなたの意見にもっとも近いものを、下記のなかからひとつ選んでください。

1. 非常に適切なものである
2. 適切なものである
3. やや適切なものである
4. どちらともいえない
5. やや不適切なものである
6. 不適切なものである
7. 非常に不適切なものである

問8 下記の見解について、以下の質問に教えてください。

見解：「我々現在生きている人々は、我々の祖先から文明や社会を引き継いでいる。我々はその文明や社会を発展させ、未来の人々に引き継ぐ必要がある。」

補足説明：我々が暮らしている文明や社会は、我々自身ですべて作り上げたものではなく、我々の祖先から引き継いだものです。この見解は、この文明や社会を、我々の手で発展させ、未来の人々に引き継ぐことを目指して、我々が振る舞うことを求めています。

上記の見解についてのあなたの意見にもっとも近いものを、下記のなかからひとつ選んでください。

1. 非常に適切なものである
2. 適切なものである
3. やや適切なものである
4. どちらともいえない
5. やや不適切なものである
6. 不適切なものである

7. 非常に不適切なものである

問9 下記の見解について、以下の質問に教えてください。

見解：「我々現在生きている人間にとって、未来の人々から、我々の行為を正しく良いものであったと認めてもらうことは重要なことである。」

補足説明：未来の人々は、我々がこの世を去ったあとから歴史を眺め、我々の振る舞いを評価することができます。この見解は、我々の振る舞いについて、道徳的に正しく、社会的利益をもたらしたものとして、未来の人々が認めることは、我々自身にとっても望ましいことを指摘しています。

上記の見解についてのあなたの意見にもっとも近いものを、下記のなかからひとつ選んでください。

1. 非常に適切なものである
2. 適切なものである
3. やや適切なものである
4. どちらともいえない
5. やや不適切なものである
6. 不適切なものである
7. 非常に不適切なものである

問10 下記の見解について、以下の質問に教えてください。

見解：「我々現在生きている人々は、自らが原因となって、人類や文明が途絶えることがないようにする必要がある。」

補足説明：殺傷力の高い兵器、地球規模の影響を与える経済活動など、我々は歴史上類を見ないほど強大な力を保持するようになっています。この見解は、この力の使用を誤ることで、人類や文明が回復不能な打撃を受け、滅亡する事態を回避することを目指して、我々が振る舞うことを求めています。

上記の見解についてのあなたの意見にもっとも近いものを、下記のなかからひとつ選んでください。

1. 非常に適切なものである
2. 適切なものである
3. やや適切なものである
4. どちらともいえない
5. やや不適切なものである
6. 不適切なものである
7. 非常に不適切なものである

問11 下記の見解について、以下の質問に教えてください。

見解：「我々現在生きている人々は、ある権威を持つ存在から自然や社会の管理を委ねられている。我々はその自然や社会を適切に管理し、永く栄えるようにする必要がある。」

補足説明：この見解は、自然や社会は我々自身のものではなく、我々は権威のある高次の存在からその管理を託されているものと考えています。この見解は、この自然や社会が、我々の時代を超えて永続的に繁栄することを目指して、我々が振る舞うことを求めています。

上記の見解についてのあなたの意見にもっとも近いものを、下記のなかからひとつ選んでください。

1. 非常に適切なものである
2. 適切なものである
3. やや適切なものである
4. どちらともいえない
5. やや不適切なものである
6. 不適切なものである
7. 非常に不適切なものである

問12 下記の見解について、以下の質問に答えてください。

見解：「我々現在生きている人間は、未来の人々の生きる自然や社会を清浄なものに保つ必要がある。」

補足説明：この見解は、人々の生きる自然が清らかで汚れがなく、その社会が秩序ある美しい状態にあることが重要であると考えています。この見解は、未来の人々の生きる自然や社会が、そのような清浄な状態に保たれることを目指して、我々が振る舞うことを求めています。

上記の見解についてのあなたの意見にもっとも近いものを、下記のなかからひとつ選んでください。

1. 非常に適切なものである
2. 適切なものである
3. やや適切なものである
4. どちらともいえない
5. やや不適切なものである
6. 不適切なものである
7. 非常に不適切なものである

※ 問1～12の提示順はランダム化

問13

- ・ 世界には、あなたの国だけしか存在しないものと想像してください。
- ・ CO₂の排出による気候変動が未来の人々に損害を与えることが予測されているものとします。あなたがその国の有権者であるとして、政府から、気候変動対策のための増税の提案を受けているものと想定します。政府が、以下の見解をあなたの説得のために用いているものとします。

問13-1 以下の見解のうち、あなたが説得的だと感ずる見解をすべて選択してください（複数回答可）。

1. 「我々現在生きている人々は、我々と未来の人々の幸福の程度を等しくする必要がある。」
2. 「我々現在生きている人々は、未来の人々が正当な理由のない不利益を被ることがないようにする必要がある。」
3. 「我々現在生きている人々は、我々と未来の人々の幸福の合計を最大にする必要がある。」
4. 「我々現在生きている人々は、未来の人々が最低限満足できる程度の幸福は享受できるようにする必要がある。」
5. 「我々現在生きている人々は、自らが原因となって、未来の人々に危害を与えることを避ける必要がある。」
6. 「我々現在生きている人々は、未来の人々を愛し、彼らの幸福を増やす必要がある。」
7. 「我々現在生きている人々と、未来の人々は同じ共同体の一員であり、我々は、自分たちと同様に未来の人々の幸福も増やす必要がある。」
8. 「我々は現在生きている人々は、我々の祖先から文明や社会を引き継いでいる。我々はその文明や社会を発展させ、未来の人々に引き継ぐ必要がある。」

9. 「我々現在生きている人間にとって、未来の人々から、我々の行為を正しく良いものであったと認めてもらうことは重要なことである。」
10. 「我々現在生きている人々は、自らが原因となって、人類や文明が途絶えることがないようにする必要がある。」
11. 「我々現在生きている人々は、ある権威を持つ存在から自然や社会の管理を委ねられている。我々はその自然や社会を適切に管理し、永く栄えるようにする必要がある。」
12. 「我々現在生きている人間は、未来の人々の生きる自然や社会を清浄なものに保つ必要がある。」
13. いずれの見解も説得的だとは感じない

問13-2 あなたが、上記の問い（問13-1）への回答を選択した理由を自由に書いてください。

[]

問14

- ・ ある国で累積政府債務が未来の人々に損害を与えることが予測されているものとします。あなたがその国の有権者であるとして、政府から、財政健全化のための増税の提案を受けているものと想定します。政府が、以下の見解をあなたの説得のために用いているものとします。

問14-1 以下の見解のうち、あなたが説得的だと感ずる見解をすべて選択してください（複数回答可）。

1. 「我々現在生きている人々は、我々と未来の人々の幸福の程度を等しくする必要がある。」
2. 「我々現在生きている人々は、未来の人々が正当な理由のない不利益を被ることがないようにする必要がある。」
3. 「我々現在生きている人々は、我々と未来の人々の幸福の合計を最大にする必要がある。」
4. 「我々現在生きている人々は、未来の人々が最低限満足できる程度の幸福は享受できるようにする必要がある。」
5. 「我々現在生きている人々は、自らが原因となって、未来の人々に危害を与えることを避ける必要がある。」
6. 「我々現在生きている人々は、未来の人々を愛し、彼らの幸福を増やす必要がある。」
7. 「我々現在生きている人々と、未来の人々は同じ共同体の一員であり、我々は、自分たちと同様に未来の人々の幸福も増やす必要がある。」
8. 「我々は現在生きている人々は、我々の祖先から文明や社会を引き継いでいる。我々はその文明や社会を発展させ、未来の人々に引き継ぐ必要がある。」
9. 「我々現在生きている人間にとって、未来の人々から、我々の行為を正しく良いものであったと認めてもらうことは重要なことである。」
10. 「我々現在生きている人々は、自らが原因となって、人類や文明が途絶えることがないようにする必要がある。」
11. 「我々現在生きている人々は、ある権威を持つ存在から自然や社会の管理を委ねられている。我々はその自然や社会を適切に管理し、永く栄えるようにする必要がある。」
12. 「我々現在生きている人間は、未来の人々の生きる自然や社会を清浄なものに保つ必要がある。」
13. いずれの見解も説得的だとは感じない

問14-2 あなたが、上記の問い（問14-1）への回答を選択した理由を自由に書いてください。

[]

問15

- ・ 世界には、あなたの国だけしか存在しないものと想像してください。
- ・ ある先端技術（例えば、人工知能や原子力技術）が利益を我々にはもたらすが、未来の人々に損害を与えることが予測されているものとします。あなたがその国の有権者であるとして、政府から、その技術の開発を禁止するとの提案を受けているものと想定します。政府が、以下の

見解をあなたの説得のために用いているものとします。

問15-1 以下の見解のうち、あなたが説得的だと感ずる見解をすべて選択してください（複数回答可）。

1. 「我々現在生きている人々は、我々と未来の人々の幸福の程度を等しくする必要がある。」
2. 「我々現在生きている人々は、未来の人々が正当な理由のない不利益を被ることがないようにする必要がある。」
3. 「我々現在生きている人々は、我々と未来の人々の幸福の合計を最大にする必要がある。」
4. 「我々現在生きている人々は、未来の人々が最低限満足できる程度の幸福は享受できるようにする必要がある。」
5. 「我々現在生きている人々は、自らが原因となって、未来の人々に危害を与えることを避ける必要がある。」
6. 「我々現在生きている人々は、未来の人々を愛し、彼らの幸福を増やす必要がある。」
7. 「我々現在生きている人々と、未来の人々は同じ共同体の一員であり、我々は、自分たちと同様に未来の人々の幸福も増やす必要がある。」
8. 「我々は現在生きている人々は、我々の祖先から文明や社会を引き継いでいる。我々はその文明や社会を発展させ、未来の人々に引き継ぐ必要がある。」
9. 「我々現在生きている人間にとって、未来の人々から、我々の行為を正しく良いものであったと認めもらうことは重要なことである。」
10. 「我々現在生きている人々は、自らが原因となって、人類や文明が途絶えることがないようにする必要がある。」
11. 「我々現在生きている人々は、ある権威を持つ存在から自然や社会の管理を委ねられている。我々はその自然や社会を適切に管理し、永く栄えるようにする必要がある。」
12. 「我々現在生きている人間は、未来の人々の生きる自然や社会を清浄なものに保つ必要がある。」
13. いずれの見解も説得的だとは感じない

問15-2 あなたが、上記の問い（問15-1）への回答を選択した理由を自由に書いてください。

※ 問13～15の提示順はランダム化。また、選択肢（1から12）の掲載順をランダム化（13は固定）

問16 現在生きている我々と未来の人々との関係を考える際に、あなたが適切だと思う見解はどのようなものですか。このアンケートでこれまでに提示してきた見解に限定する必要はありません。あなた自身の考えを自由に書いてください。

※ 以下、個人属性を聴取

表S2. 回答者の属性（人数（％））

	グローバル	アメリカ	フランス	日本	中国	インド	UAE	南アフリカ
総計	3,619	494	530	488	498	537	526	546
女性	1,826 (50.5)	247 (50.0)	295 (55.7)	223 (45.7)	278 (55.8)	240 (44.7)	207 (39.4)	336 (61.5)
年齢								
若年層	1,392 (38.5)	102 (20.7)	70 (13.2)	73 (15.0)	258 (51.8)	285 (53.1)	275 (52.3)	329 (60.3)
壮年層	1,833 (50.6)	281 (56.9)	299 (56.4)	323 (66.2)	238 (47.8)	241 (44.9)	249 (47.3)	202 (37.0)
高齢層	394 (10.9)	111 (22.5)	161 (30.4)	92 (18.9)	2 (0.40)	11 (2.1)	2 (0.38)	15 (2.75)
大卒以上	2,098 (58.0)	164 (33.2)	143 (27.0)	227 (46.5)	423 (85.0)	448 (83.4)	420 (79.9)	27.3 (50.0)
都市居住	2,208 (61.0)	176 (35.6)	232 (43.8)	191 (39.1)	456 (91.6)	444 (82.7)	464 (88.2)	245 (44.9)
子供あり	2,436 (67.3)	297 (60.1)	362 (68.3)	214 (43.9)	410 (82.3)	354 (65.9)	385 (73.2)	414 (75.8)
保守的	1,499 (41.4)	265 (53.6)	201 (37.9)	296 (60.7)	76 (15.3)	112 (20.9)	290 (55.1)	259 (47.4)
人種								
白人	-	322 (65.2)	-	-	-	-	-	108 (19.8)
黒人	-	99 (20.0)	-	-	-	-	-	384 (70.3)

注¹ 年齢のうち「若年層」は39歳以下、「壮年層」64歳以下、「高齢層」65歳以上を指す。² 「都市居住」は、居住地を「都市」「郊外」「田舎」のうちから「都市」を選んだ者。³ 「保守的」は政治的イデオロギーの志向で、保守とリベラル等（保守以外の者）を識別（中国では、社会的イデオロギーとして訊いたもの）。

表S3. 道徳原理のランキング (MJによる、降順)

グローバル			アメリカ			フランス		
原理	中央値	中央値以上の回答数	原理	中央値	中央値以上の回答数	原理	中央値	中央値以上の回答数
PUR	6	1870	HP	5	364	PUR	6	278
HP	5	2817	ALT	5	350	SUV	5	392
SUV	5	2758	PUR	5	349	HP	5	377
INR	5	2746	SUV	5	343	INR	5	369
ALT	5	2738	INR	5	334	ALT	5	362
COM	5	2697	COM	5	333	COM	5	361
REC	5	2582	SUF	5	331	SUF	5	355
SUF	5	2569	EG	5	320	AUT	5	334
AUT	5	2562	REC	5	316	REC	5	334
UT	5	2471	AUT	5	315	UT	5	322
PRO	5	2406	UT	5	313	EG	5	315
EG	5	2337	PRO	5	282	PRO	5	313

日本			中国			インド		
原理	中央値	中央値以上の回答数	原理	中央値	中央値以上の回答数	原理	中央値	中央値以上の回答数
PUR	5	322	PUR	6	252	PUR	6	325
HP	5	315	ALT	5	424	ALT	6	309
SUV	5	299	SUV	5	407	INR	6	295
INR	5	284	INR	5	406	COM	6	290
COM	5	262	REC	5	393	HP	6	286
PRO	5	258	COM	5	388	AUT	6	275
ALT	4	353	SUF	5	365	SUV	6	270
SUF	4	347	HP	5	360	UT	5	437
UT	4	333	UT	5	349	REC	5	428
REC	4	326	AUT	5	349	SUF	5	427
AUT	4	320	EG	5	325	EG	5	418
EG	4	300	PRO	5	318	PRO	5	404

UAE			南アフリカ		
原理	中央値	中央値以上の回答数	原理	中央値	中央値以上の回答数
PUR	6	348	ALT	6	360
HP	6	333	PUR	6	356
SUV	6	309	COM	6	347
REC	6	309	INR	6	321
AUT	6	307	SUF	6	304
INR	6	306	AUT	6	299
ALT	6	302	HP	6	278
COM	6	283	SUV	6	262
PRO	6	283	REC	5.5	273
SUF	6	267	UT	5	419
UT	6	266	PRO	5	416
EG	5	398	EG	5	379

注 EG：平等主義、PRO：比例性、UT：功利主義、SUF：十分主義、HP：危害原則、ALT：利他主義、COM：共同体主義、INR：間接互惠性、REC：承認、SUV：世界の存続、AUT：権威、PUR：清浄。

表S4. 因子分析（サーベイ1）

アメリカ・若年層		フランス・若年層		フランス・高齢層		日本・若年層	
因子1 存続的正義	UT	因子1 存続的正義	SUV	因子1 分配的正義	AUT	因子1 存続的正義	SUV
	HP		PUR		INR		PUR
	AUT		INR		PRO		PRO
	REC		SUF		EG		SUF
	SUF		ALT		SUF		UT
	INR		COM		UT		ALT
因子2 分配的正義	EG	因子2 分配的正義	HP	因子2 存続的正義	HP	因子2 分配的正義	HP
	COM		AUT		SUV		EG
	ALT		UT		COM		COM
	PUR		REC		PUR		REC
	SUV		PRO		ALT		AUT
	PRO		EG		REC		INR

日本・高齢層		中国・壮年層		UAE・全年齢		南アフリカ・若年層	
因子1 存続的正義	PUR	因子1 分配的正義	PUR	因子1 分配的正義	COM	因子1 存続的正義	SUV
	INR		ALT		SUF		PUR
	HP		COM		UT		AUT
	SUV		SUF		REC		COM
	COM		EG		ALT		HP
	UT		AUT		EG		
	ALT		HP		INR		
	REC		SUV		SUV		
PRO	INR	PRO	因子2 分配的正義	EG	SUF		
因子2 分配的正義	SUF	REC		HP	UT	REC	
	EG	PRO		AUT	ALT	ALT	
	AUT	UT		PUR	INR	INR	
				PRO	PRO		

表S5. 因子の要素（道德原理の登場頻度）

因子「存続的正義」	因子「分配的正義」
7 世界の存続 (SUV)	8 平等主義 (EG)
7 危害原則 (HP)	6 権威 (AUT)
6 清浄 (PUR)	5 十分主義 (SUF)
4 間接互惠性 (INR)	4 功利主義 (UT)
4 比例性 (PRO)	4 利他主義 (ALT)
4 共同体主義 (COM)	4 共同体主義 (COM)
4 利他主義 (ALT)	4 比例性 (PRO)
4 権威 (AUT)	4 間接互惠性 (INR)
4 承認 (REC)	2 危害原則 (HP)
4 功利主義 (UT)	2 清浄 (PUR)
3 十分主義 (SUF)	1 承認 (REC)

注 数値は、表S4の結果に基づき、各因子への道德原理の出現の頻度を示す。

表S6. 多次元尺度構成法による第1次元、第2次元と道德原理との相関係数

第1次元 (負)	PRO -0.758	HP -0.652	AUT -0.638	UT 0.048	PUR 0.097	REC 0.100
SUF 0.293	EG 0.294	COM 0.336	ALT 0.420	INR 0.474	SUV 0.623	第1次元 (正)
第2次元 (負)	UT -0.745	EG -0.719	AUT -0.612	SUF -0.632	REC -0.646	ALT -0.302
COM 0.302	PRO 0.397	INR 0.416	HP 0.500	SUV 0.709	PUR 0.772	第2次元 (正)

表S7. 道徳原理への評価と個人属性との関係（各国別）（Tobit）

	アメリカ		フランス	
	「存続的正義」	「分配的正義」	「存続的正義」	「分配的正義」
性別 (女性=1)	-0.1479 (-0.1247)	-0.1467 (-0.1247)	-0.0600 (-0.0524)	-0.0008 (-0.0007)
年齢 (一歳刻み)	0.0029 (0.0025)	-0.0000 (-0.0000)	0.0064** (0.0056)	0.0049* (0.0045)
大卒以上	0.2040* (0.1721)	0.0436 (0.0370)	0.0620 (0.0541)	-0.0386 (-0.0353)
都市居住	0.3377*** (0.2848)	0.3973*** (0.3378)	0.0118 (0.0103)	0.0633 (0.0579)
子どもあり	0.2776*** (0.2341)	0.3589*** (0.3051)	0.0721 (0.0629)	0.1213 (0.1109)
イデオロギー (保守=1)	0.0187 (0.0158)	0.1108 (0.0942)	0.0711 (0.0620)	0.0403 (0.0369)
人種 (白人=1)	-0.0872 (-0.0736)	-0.1066 (-0.0906)		
定数	4.5017***	4.5185***	4.5421***	4.3502***
Pseudo R2	0.0195	0.0206	0.0067	0.0056
	日本		中国	
	「存続的正義」	「分配的正義」	「存続的正義」	「分配的正義」
性別 (女性=1)	0.1941* (0.1773)	0.1743* (0.1685)	-0.1635** (-0.1436)	-0.0765 (-0.0695)
年齢 (一歳刻み)	0.0064* (0.0059)	0.0054 (0.0052)	0.0286*** (0.0251)	0.0228*** (0.0207)
大卒以上	-0.0314 (-0.0287)	-0.0635 (-0.0614)	-0.0832 (-0.0730)	-0.1643 (-0.1494)
都市居住	-0.0098 (-0.0089)	0.0196 (0.0190)	0.1242 (0.1090)	0.2313* (0.2104)
子どもあり	0.1079 (0.0985)	0.1500 (0.1450)	-0.1945* (-0.1708)	-0.0213 (-0.0194)
イデオロギー (保守=1)	-0.0488 (-0.0446)	0.0999 (0.0965)	-0.1780* (-0.1563)	-0.1482 (-0.1348)
定数	4.1674***	3.7231***	4.3378***	4.1866***
Pseudo R2	0.0064	0.0082	0.0414	0.0315

	インド		UAE	
	「存続的正義」	「分配的正義」	「存続的正義」	「分配的正義」
性別 (女性=1)	-0.0748 (-0.0555)	-0.0188 (-0.0145)	-0.0534 (-0.0402)	-0.0493 (-0.0384)
年齢 (一歳刻み)	-0.0015 (-0.0011)	-0.0020 (-0.0016)	0.0021 (0.0016)	0.0036 (0.0028)
大卒以上	0.0088 (0.0065)	0.0158 (0.0122)	0.1150 (0.0865)	0.1922* (0.1496)
都市居住	0.2322** (0.1723)	0.3493*** (0.2699)	0.4096*** (0.3082)	0.2518** (0.1960)
子どもあり	0.1907* (0.1415)	0.1992* (0.1539)	-0.0610 (-0.0459)	0.1821* (0.1417)
イデオロギー (保守=1)	-0.3178*** (-0.2358)	-0.3119*** (0.1539)	0.1099 (0.0826)	0.0539 (0.0419)
定数	5.1706***	4.9843***	4.9184***	4.6835***
Pseudo R2	0.0125	0.0180	0.0167	0.0155

	南アフリカ	
	「存続的正義」	「分配的正義」
性別 (女性=1)	-0.0633 (-0.0481)	-0.0355 (-0.0291)
年齢 (一歳刻み)	0.0058* (0.0044)	0.0032 (0.0026)
大卒以上	-0.0418 (-0.0318)	0.0030 (0.0024)
都市居住	0.0340 (0.0258)	-0.0360 (-0.0296)
子どもあり	0.0824 (0.0627)	0.2739*** (0.2248)
イデオロギー (保守=1)	-0.1533** (-0.1165)	-0.1054 (-0.0865)
人種 (白人=1)	-0.1663* (-0.1264)	-0.1344 (-1.087)
定数	5.2994***	5.0385***
Pseudo R2	0.0095	0.0128

注1 *** 1% 有意、** 5% 有意、* 10% 有意。注2 係数の下の括弧内は限界効果。正に有意の係数にはオレンジ、負に有意の係数に青で着色。

表S8. 道徳原則への評価と個人属性との関係（順序ロジット）（グローバルサンプル）

	EG	PRO	UT	SUF	HP
性別 (女性=1)	-0.0882 (0.0605)	-0.2130*** (0.0613)	-0.1453** (0.0620)	-0.0655 (0.0623)	-0.0524 (0.0636)
年齢 (一歳刻み)	0.0028 (0.0025)	-0.0004 (0.0026)	0.0031 (0.0025)	0.0029 (0.0025)	0.0090*** (0.0026)
大卒以上	-0.0018 (0.0711)	-0.0786 (0.0708)	0.081 (0.0734)	0.0225 (0.0725)	0.0132 (0.0736)
都市居住	0.2165*** (0.0724)	0.2456*** (0.0732)	0.2536*** (0.0729)	0.2704*** (0.0726)	0.2942*** (0.0748)
子どもあり	0.4044*** (0.0706)	0.0674 (0.0714)	0.1633** (0.0707)	0.2220*** (0.0726)	0.0446 (0.0723)
イデオロギー (保守=1)	-0.0405 (0.0646)	-0.0703 (0.0651)	-0.0669 (0.0658)	-0.0427 (0.0655)	-0.1166* (0.0684)
フランス	-0.2878** (0.1173)	-0.0124 (0.1145)	-0.1147 (0.1161)	-0.2084*** (0.1194)	-0.1083 (0.1193)
日本	-1.0966*** (0.1162)	-0.2516** (0.1147)	-0.7864*** (0.1191)	-1.0191*** (0.1221)	-0.5877*** (0.1171)
中国	-0.3298** (0.1302)	0.0011 (0.1362)	0.0754 (0.1347)	-0.1367 (0.1379)	-0.2289* (0.1352)
インド	0.4800*** (0.1306)	0.6686*** (0.1329)	0.7425*** (0.1328)	0.4829*** (0.1398)	0.4665*** (0.1345)
UAE	0.4408*** (0.1336)	0.9928*** (0.1358)	0.7559*** (0.1366)	0.5723*** (0.1393)	0.9087*** (0.1383)
南アフリカ	0.2231* (0.1252)	0.8806*** (0.1296)	0.6633*** (0.1244)	0.7421*** (0.1328)	1.1717*** (0.1330)
Pseudo R2	0.0337	0.0262	0.0350	0.0378	0.0364
	ALT	COM	INR	REC	SUV
性別 (女性=1)	-0.0169 (0.0635)	-0.0198 (0.0629)	-0.0843 (0.0634)	-0.0798 (0.0627)	-0.1751*** (0.0636)
年齢	0.0022 (0.0026)	0.0068** (0.0026)	0.0078*** (0.0026)	0.0048* (0.0026)	0.0073*** (0.0026)
大卒以上	-0.0764 (0.0732)	-0.0116 (0.0722)	0.0432 (0.0713)	-0.1346* (0.0719)	0.0224 (0.0728)
都市居住	0.2967*** (0.0761)	0.1708** (0.0745)	0.1904** (0.0743)	0.2415*** (0.0738)	0.0224*** (0.0728)
子どもあり	0.2908*** (0.0723)	0.2676*** (0.0724)	0.0547 (0.0754)	0.3075*** (0.0729)	0.1120 (0.0734)
イデオロギー (保守=1)	-0.0235 (0.0693)	-0.1667** (0.0675)	0.0630 (0.0680)	-0.0359 (0.0678)	-0.1066 (0.0686)
フランス	-0.2012* (0.1178)	-0.1395 (0.1206)	-0.0008 (0.1191)	-0.2515** (0.1190)	0.0529 (0.1215)
日本	-0.9707*** (0.1204)	-0.6781*** (0.1202)	-0.5572*** (0.1172)	-0.8911*** (0.1220)	-0.5476*** (0.1206)
中国	0.2797** (0.1342)	0.2547* (0.1389)	0.5680*** (0.1359)	0.4314*** (0.1375)	0.2623* (0.1340)
インド	0.7257*** (0.1373)	0.8177*** (0.1408)	0.8601*** (0.1353)	0.7655*** (0.1380)	0.2821** (0.1335)
UAE	0.6299*** (0.1396)	0.7784*** (0.1435)	0.9237*** (0.1385)	1.1766*** (0.1412)	0.5666*** (0.1381)
南アフリカ	1.0630*** (0.1324)	1.0856*** (0.1327)	0.9424*** (0.1329)	0.9052*** (0.1308)	0.7637*** (0.1288)
Pseudo R2	0.0492	0.0395	0.0309	0.0504	0.0196

	AUT	PUR
性別 (女性=1)	0.0236 (0.0625)	-0.1207* (0.0654)
年齢	0.0067 (0.0026)	0.0081*** (0.0027)
大卒以上	-0.0073 (0.0721)	-0.0582 (0.0742)
都市居住	0.2124*** (0.0743)	0.1890** (0.0767)
子どもあり	0.1780** (0.0720)	0.2157*** (0.0742)
イデオロギー (保守=1)	-0.0301 (0.0665)	-0.1426** (0.0704)
フランス	-0.1567 (0.1189)	0.4922*** (0.1258)
日本	-0.7573*** (0.1159)	-0.3716*** (0.1179)
中国	0.1371 (0.1335)	0.5858*** (0.1373)
インド	0.8051*** (0.1319)	0.9717*** (0.1393)
UAE	1.0183*** (0.1375)	1.2117*** (0.1437)
南アフリカ	1.0237*** (0.1250)	1.2980*** (0.1326)
Pseudo R2	0.0400	0.0396

注¹ N=3,619; *** 1% 有意、** 5% 有意、* 10% 有意。注² EG : 平等主義、PRO : 比例性、UT : 功利主義、SUF : 十分主義、HP : 危害原則、ALT : 利他主義、COM : 共同体主義、INR : 間接互惠性、REC : 承認、SUV : 世界の存続、AUT : 権威、PUR : 清浄。注³ 正に有意の係数にはオレンジ、負に有意の係数に青で着色。

表S9. 「存続的正義」と「分配的正義」の評価スコア差分（＝特化度）

	若年層	中年層	高齢層	(年齢層別、年齢標準化)
				年齢標準化
日本	0.468	0.334	0.464	0.400
フランス	0.131	0.230	0.206	0.189
南アフリカ	0.140	0.143	0.033	0.130
中国	0.096	0.125	0.000 注 ²	0.101 (0.113)
UAE	0.129	0.070	-0.250 注 ²	0.058 (0.096)
アメリカ	-0.025	0.076	0.164	0.047
インド	0.073	0.024	0.015	0.042

注¹ 「存続的正義」と「分配的正義」の評価スコアの差分（≠特化度）を年齢層毎に集計した計数からは、日本やフランスの「存続的正義」への特化が、年齢層横断的であることを示す。注² 中国とUAEの高齢層は各2人しかおらず、参考値にとどめる。注³ 年齢標準化とは、全サンプルの年齢構成（若年：38.5%、中年：50.6%、高齢10.9%）に標準化して、各国の特化度を算出したもの。中国とUAEの括弧内の数値は、両国の高齢層を除き、若年層と中年層だけで年齢標準化した特化度。

表S10. 「存続的正義」と「分配的正義」の評価スコア差分（＝特化度）の回帰分析（OLS）

被説明変数：特化度

アメリカ	-0.3048*** (0.0355)
フランス	--0.1716*** (0.0361)
中国	-0.2608*** (0.0377)
インド	-0.3227*** (0.0373)
UAE	-0.2707*** (0.0376)
南アフリカ	-0.2364*** (0.0373)
中年層	-0.0090 (0.0205)
高齢層	0.0397 (0.0344)
大卒以上	0.0102 (0.0216)
都市居住	-0.0116 (0.0220)
定数	0.3767*** (0.0340)
R2	0.035

注¹ N=3,619; *** 1% 有意、** 5% 有意、* 10% 有意。注² 国は日本、年齢層は若年層、学歴は非大卒、居住地は都市以外を基準とした。

表S11. 気候変動、財政、先端技術における回答：説得力のある原理（複数回答可）

(a) 主題別

米国	「存続的正義」	「分配的正義」	説得力のある原理なし
気候	0.261	0.213	0.144
財政	0.238	0.211	0.186
技術	0.239	0.200	0.174
仏	「存続的正義」	「分配的正義」	説得力のある原理なし
気候	0.279	0.210	0.147
財政	0.266	0.195	0.172
技術	0.281	0.200	0.155
日本	「存続的正義」	「分配的正義」	説得力のある原理なし
気候	0.294	0.174	0.160
財政	0.270	0.171	0.176
技術	0.295	0.162	0.164
中国	「存続的正義」	「分配的正義」	説得力のある原理なし
気候	0.311	0.268	0.066
財政	0.260	0.268	0.116
技術	0.322	0.261	0.070
印	「存続的正義」	「分配的正義」	説得力のある原理なし
気候	0.364	0.336	0.032
財政	0.357	0.349	0.073
技術	0.363	0.333	0.050
UAE	「存続的正義」	「分配的正義」	説得力のある原理なし
気候	0.313	0.275	0.036
財政	0.287	0.280	0.080
技術	0.316	0.264	0.063
南ア	「存続的正義」	「分配的正義」	説得力のある原理なし
気候	0.346	0.311	0.066
財政	0.320	0.292	0.134
技術	0.334	0.303	0.114

(b) 道徳原理別

米国	EG	PRO	UT	SUF	HP	ALT	COM	INR	REC	SUV	AUT	PUR	NON
気候	0.221	0.231	0.196	0.213	0.291	0.198	0.235	0.233	0.198	0.302	0.251	0.273	0.144
財政	0.198	0.219	0.225	0.221	0.273	0.211	0.213	0.227	0.186	0.249	0.223	0.247	0.186
技術	0.198	0.233	0.204	0.213	0.277	0.206	0.194	0.251	0.182	0.263	0.194	0.215	0.174
仏	EG	PRO	UT	SUF	HP	ALT	COM	INR	REC	SUV	AUT	PUR	NON
気候	0.192	0.191	0.177	0.211	0.323	0.211	0.223	0.245	0.209	0.326	0.258	0.366	0.147
財政	0.187	0.251	0.177	0.209	0.309	0.198	0.226	0.258	0.200	0.275	0.200	0.274	0.172
技術	0.181	0.226	0.170	0.208	0.313	0.206	0.226	0.275	0.208	0.317	0.225	0.328	0.155
日本	EG	PRO	UT	SUF	HP	ALT	COM	INR	REC	SUV	AUT	PUR	NON
気候	0.135	0.285	0.152	0.172	0.330	0.189	0.205	0.277	0.156	0.314	0.242	0.352	0.160
財政	0.160	0.346	0.152	0.211	0.283	0.178	0.199	0.277	0.162	0.260	0.160	0.252	0.176
技術	0.135	0.311	0.123	0.176	0.363	0.176	0.215	0.295	0.186	0.324	0.174	0.262	0.164
中国	EG	PRO	UT	SUF	HP	ALT	COM	INR	REC	SUV	AUT	PUR	NON
気候	0.205	0.229	0.247	0.247	0.313	0.317	0.251	0.343	0.249	0.325	0.341	0.402	0.066
財政	0.219	0.231	0.285	0.249	0.271	0.299	0.287	0.315	0.277	0.237	0.281	0.219	0.116
技術	0.197	0.303	0.265	0.243	0.367	0.263	0.279	0.327	0.283	0.367	0.315	0.291	0.070
印	EG	PRO	UT	SUF	HP	ALT	COM	INR	REC	SUV	AUT	PUR	NON
気候	0.311	0.350	0.292	0.318	0.371	0.350	0.348	0.343	0.356	0.359	0.387	0.412	0.032
財政	0.326	0.361	0.343	0.369	0.307	0.343	0.382	0.378	0.361	0.345	0.350	0.369	0.073
技術	0.311	0.350	0.331	0.343	0.404	0.330	0.356	0.337	0.324	0.356	0.361	0.372	0.050
UAE	EG	PRO	UT	SUF	HP	ALT	COM	INR	REC	SUV	AUT	PUR	NON
気候	0.243	0.304	0.253	0.257	0.373	0.234	0.247	0.306	0.289	0.283	0.371	0.367	0.036
財政	0.283	0.306	0.293	0.308	0.319	0.298	0.262	0.276	0.278	0.293	0.221	0.268	0.080
技術	0.234	0.314	0.264	0.232	0.394	0.245	0.264	0.327	0.285	0.331	0.321	0.264	0.063
南ア	EG	PRO	UT	SUF	HP	ALT	COM	INR	REC	SUV	AUT	PUR	NON
気候	0.289	0.330	0.293	0.326	0.368	0.304	0.341	0.284	0.306	0.344	0.348	0.407	0.066
財政	0.260	0.339	0.299	0.324	0.335	0.284	0.328	0.317	0.289	0.302	0.295	0.299	0.134
技術	0.253	0.344	0.284	0.306	0.388	0.322	0.291	0.311	0.315	0.341	0.337	0.326	0.114

注¹ EG：平等主義、PRO：比例性、UT：功利主義、SUF：十分主義、HP：危害原則、ALT：利他主義、COM：共同体主義、INR：間接互惠性、REC：承認、SUV：世界の存続、AUT：権威、PUR：清浄、NON：説得的原理なし。注² 説得的であると回答した者が各サンプルの原理の平均より1標準偏差以上大きい原理を黄、1標準偏差以下小さい原理を青で着色した。

表S12. 「存続的正義」「分配的正義」「説得的原理なし」の選択と文化、個人属性との関係
(気候、財政、技術; グローバルサンプル)

1) 気候	「存続的正義」	「分配的正義」	「説得的原理なし」
性別 (女性=1)	-0.0251 (-0.0169)	-0.0393** (-0.0234)	0.0883 (0.0070)
年齢 (一歳刻み)	0.0023*** (0.0016)	0.0021*** (0.0012)	0.0075* (0.0006)
大卒以上	0.0045 (0.0030)	-0.0039 (-0.0023)	-0.1922 (-0.0153)
都市居住	0.0203 (0.0136)	0.0180 (0.0107)	-0.2615** (-0.0209)
子どもあり	0.0405** (0.0272)	0.0663*** (0.0396)	-0.5921*** (-0.0472)
イデオロギー (保守=1)	-0.0112 (-0.0075)	0.0032 (0.0019)	0.0079 (0.0006)
フランス	0.0164 (0.0111)	-0.0096 (-0.0057)	0.0645 (0.0052)
日本	0.0563* (0.0379)	-0.0696** (-0.0415)	0.0693 (0.0055)
中国	0.1006*** (0.0677)	0.1294*** (0.0772)	-0.3569 (-0.0285)
インド	0.1793*** (0.1206)	0.2362*** (0.1410)	-1.2644*** (-0.1009)
UAE	0.1140*** (0.0767)	0.1405*** (0.0839)	-1.0744*** (-0.0857)
南アフリカ	0.1660*** (0.1117)	0.2058*** (0.1228)	-0.6111*** (-0.0488)
定数	0.0435	-0.0545	-1.7363***
Pseudo R2	0.0149	0.0330	0.0670
2) 財政	「存続的正義」	「分配的正義」	「説得的原理なし」
性別 (女性=1)	-0.0290* (-0.0181)	-0.0326* (-0.0188)	0.0198 (0.0022)
年齢 (一歳刻み)	0.0035*** (0.0022)	0.0030*** (0.0017)	0.0028 (0.0003)
大卒以上	0.0399** (0.0250)	0.0206 (0.0119)	-0.2252** (-0.0253)
都市居住	0.0255 (0.0160)	0.0095 (0.0055)	-0.1013 (-0.0114)
子どもあり	0.0697*** (0.0437)	0.0730*** (0.0420)	-0.4790*** (-0.0538)
イデオロギー (保守=1)	-0.0153 (-0.0096)	-0.0053 (-0.0031)	-0.1183 (-0.0133)
フランス	0.0268 (0.0168)	-0.0435 (-0.0251)	-0.0927 (-0.0104)
日本	0.0529* (0.0331)	-0.0869** (-0.0500)	-0.1050 (-0.0118)
中国	0.0432 (0.0271)	0.1371*** (0.0789)	-0.2718 (-0.0305)
インド	0.1940*** (0.1215)	0.2566*** (0.1478)	-0.8862*** (-0.0996)
UAE	0.0982*** (0.0615)	0.2566*** (0.0909)	-0.7101*** (-0.0798)
南アフリカ	0.1632*** (0.1022)	0.1756*** (0.1011)	-0.2417 (-0.02716)
定数	-0.0831*	-0.1165***	-1.1828
Pseudo R2	0.0207	0.0362	0.0315

3) 技術	「存続的正義」	「分配的正義」	「説得的原理なし」
性別 (女性=1)	-0.0270* (-0.0180)	-0.0632*** (-0.0365)	-0.0089 (-0.0009)
年齢 (一歳刻み)	0.0020** (0.0013)	0.0016** (0.0009)	0.0153*** (0.0015)
大卒以上	0.0232 (0.0154)	-0.0105 (-0.0060)	-0.2124* (-0.0204)
都市居住	0.0077 (0.0051)	0.0270 (0.0156)	-0.1025 (-0.0098)
子どもあり	0.0411** (0.0274)	0.0892** (0.0515)	-0.5085*** (-0.0488)
イデオロギー (保守=1)	-0.0127 (-0.0085)	-0.0183 (-0.0106)	0.0071 (0.0007)
フランス	0.0617** (0.0411)	-0.0128 (-0.0074)	-0.1496 (-0.0144)
日本	0.0975*** (0.0649)	-0.0949*** (-0.0548)	-0.1260 (-0.0121)
中国	0.1545** (0.1029)	0.1118*** (0.0645)	-0.4907** (-0.0471)
インド	0.2014*** (0.1341)	0.2292*** (0.1324)	-0.9613*** (-0.0922)
UAE	0.1497*** (0.0997)	0.1172*** (0.0677)	-0.6937*** (-0.0666)
南アフリカ	0.1747*** (0.1163)	0.1920*** (0.1108)	-0.1251 (-0.0120)
定数	0.0219	-0.0413	-1.9459***
Pseudo R2	0.0157	0.0382	0.0478

注¹ *** 1% 有意、** 5% 有意、* 10% 有意。注² 「存続的正義」「分配的正義」ではTobit分析、「説得的原理なし」ではロジット分析を行った。注³ 正に有意の係数にはオレンジ、負に有意の係数に青で着色。

表S13. コーディングルール

作成要領

サーベイ2では、参加者に回答理由を自由記述してもらった。また、サーベイの最後には、世代間問題について自由に意見を記述してもらった。コーディングルールは、回答の記述の客観的分析のためのもので、あるカテゴリーに該当する語（句）が記述にある場合、そのカテゴリーに関する話が行われたものと判定し、その記述を含む回答（者）数を数え上げる。語（句）の各カテゴリーへの帰属のルールをコーディングルールと呼ぶ。そのルールは、3名の部外者（英語ネイティブ）を雇い、2名以上が同一カテゴリーに属すると判定した語（句）を当該カテゴリー帰属させた。このコーディングルールをもとに、英語に機械翻訳（グーグル）した自由記述に対して分析した。分析は、KH Coderを用いて実施した。

本研究で用いた具体的なコーディングルールは、以下の通りである。

*将来/子ども（Future generation/children）

Future. future and generation. next generation. child. grandchild. Children. Kid. Grandkid. Grandchildren. Grandson. great-grandchild. Grandchildren. Descendant. Offspring.

*人類/地球/生存（Humankind/Earth/survival）

Human. Humanity. Humanistic. Humankind. Mankind. Planet. Planetary. Earth. Earthing. Nature. Global. World. Survival. Survive. Extinction. Extinct. Exist. existence

*遺産/持続可能性（Heritage/sustainability）

Heritage. Ancestor. Inherit. Inheritance. Legacy. Tradition. History. Sustainability. Sustainable. non-sustainable. Sustain. long-term. Century. tomorrow

*危害/危険（Harm/danger）

Harm. Harmful. Suffer. Suffering. Damage. Destroy. Destructive. Disaster. Disastrous. Devastating. Pain. Painful. Detrimental. Terrible. Burden. Unhappiness. Disadvantage. Disadvantaged. Risk. negative impacts. negative legacy. negative effects. Unhealthy. Crisis. Danger. Worse. Bad. Misfortune. Threaten. extreme weather. Catastrophe.

*ケア/保護（Care/protection）

Care. Protect. Protection. Protector. Preserve. Save. Maintain. Safe. Safeguard. Support. Love. positive impacts.

*幸福/機會 (Well-being/opportunity)

well-being. Happiness. Health. Benefit. Welfare. Opportunity. Possibility. Prosperity.

*正義/責任 (Justice/responsibility)

Responsibility. Duty. Obligation. Equality. Inequalities. Ethical. Moral. Justice. Justification. Unjust. Fair. Equity. Equitable. Rights.

*清淨/污濁 (Clean/dirty)

Clean. Cleanse. Beautiful. pollution-free. Pure. Purity. Dirty. Ugly. Contaminate. Pollution. Unclean. Impure.

*平和/調和 (Peace/harmony)

Peace. Harmony. Stable. Stability. balance

*共同体/家族 (Community/family)

Community. Family.

*經濟 (Economy)

Economy. Financial. Growth. Deficit. Wealth. Money. Bankrupt. Poverty.

*技術 (Technology)

Technology. Innovation. AI.

*稅 (Tax)

Tax. Surtax. taxpayer

*禁止 (Ban)

Ban. Prohibit.

*政府 (Government)

Government.

表S14. サurvey 2 への回答理由（財政、技術）（コーディングルールに該当する語の使用者の割合）

1) 財政

カテゴリー	説得的原理あり	説得的原理なし	合計	カイ二乗
将来世代/子ども	949 (30.2%)	47 (9.8%)	996 (27.5%)	86.597***
人類/地球/生存	213 (6.8%)	19 (4.0%)	232 (6.4%)	5.135**
遺産/持続可能性	125 (4.0%)	7 (1.5%)	132 (3.7%)	6.833***
危害/危険	272 (8.7%)	27 (5.6%)	299 (8.3%)	4.739**
ケア/保護	284 (9.1%)	14 (2.9%)	298 (8.2%)	20.002***
幸福/機会	230 (7.3%)	12 (2.5%)	242 (6.7%)	14.858***
正義/責任	203 (6.5%)	31 (6.4%)	234 (6.5%)	0.000
清浄/汚濁	36 (1.2%)	3 (0.6%)	39 (1.1%)	0.637
平和/調和	74 (2.4%)	3 (0.6%)	77 (2.1%)	5.221**
共同体/家族	27 (0.9%)	3 (0.6%)	30 (0.8%)	0.069
経済	246 (7.8%)	39 (8.1%)	285 (7.9%)	0.013
技術	14 (0.5%)	1 (0.2%)	15 (0.4%)	0.142
税	166 (5.3%)	79 (16.4%)	245 (6.8%)	80.165***
政府	622 (19.8%)	110 (22.9%)	732 (20.2%)	2.215
回答者数	3138 (100.0%)	481 (100.0%)	3619 (100.0%)	

2) 技術

カテゴリー	説得的原理あり	説得的原理なし	合計	カイ二乗
将来世代/子ども	1031 (32.1%)	54 (13.3%)	1085 (30.0%)	59.315***
人類/地球/生存	465 (14.5%)	26 (6.4%)	491 (13.6%)	19.187***
遺産/持続可能性	109 (3.4%)	2 (0.5%)	111 (3.1%)	9.206***
危害/危険	399 (12.4%)	37 (9.1%)	436 (12.1%)	3.346*
ケア/保護	351 (10.9%)	15 (3.7%)	366 (10.1%)	19.823***
幸福/機会	240 (7.5%)	17 (4.2%)	257 (7.1%)	5.344**
正義/責任	137 (4.3%)	7 (1.7%)	144 (4.0%)	5.401**
清浄/汚濁	58 (1.8%)	5 (1.2%)	63 (1.7%)	0.391
平和/調和	35 (1.1%)	2 (0.5%)	37 (1.0%)	0.740
共同体/家族	16 (0.5%)	2 (0.5%)	18 (0.5%)	0.000
経済	43 (1.3%)	2 (0.5%)	45 (1.2%)	1.456
技術	951 (29.6%)	117 (28.9%)	1068 (29.5%)	0.054
税	3 (0.1%)	0 (0.0%)	3 (0.1%)	0.000
禁止	21 (0.7%)	17 (4.2%)	38 (1.1%)	40.139**
政府	34 (1.1%)	6 (1.5%)	40 (1.1%)	0.267
回答者数	3214 (100.0%)	405 (100.0%)	3619 (100.0%)	

注¹ *** 1% 有意、** 5% 有意、* 10% 有意。注² 説得的原理ありとした者、なしとした者のいずれかで、回答者の割合の有意に多いカテゴリーのある時、「あり」か「なし」の欄にオレンジで着色した。

表S15. サーベイ2で「説得的原理あり（Yes）」／「説得的原理なし（NON）」のサーベイ1での回答状況

(a) 気候	EG	PRO	UT	SUF	HP	ALT	COM	INR	REC	SUV	AUT	PUR
Yes, avg	4.78	4.81	4.91	4.95	5.16	5.14	5.08	5.11	4.98	5.13	4.94	5.28
NON, avg	4.04	4.16	4.05	4.31	4.48	4.32	4.35	4.36	4.18	4.39	4.17	4.52
NON, median	4	4	4	5	5	4	5	4	4	5	4	5
(b) 財政	EG	PRO	UT	SUF	HP	ALT	COM	INR	REC	SUV	AUT	PUR
Yes, avg	4.78	4.81	4.90	4.95	5.14	5.13	5.07	5.10	4.98	5.11	4.93	5.27
NON, avg	4.28	4.38	4.38	4.54	4.82	4.62	4.65	4.69	4.44	4.76	4.49	4.86
NON, median	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
(c) TECH	EG	PRO	UT	SUF	HP	ALT	COM	INR	REC	SUV	AUT	PUR
Yes, avg	4.77	4.82	4.90	4.95	5.15	5.12	5.08	5.10	4.97	5.11	4.94	5.27
NON, avg	4.31	4.24	4.35	4.44	4.65	4.57	4.53	4.58	4.40	4.66	4.32	4.74
NON, median	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

注¹ Yes, avgは、何らかの道徳原理の説得性を認めた者による、サーベイ1での原理の評価スコアの平均、NON avgは、説得的原理はないとした者による、サーベイ1での原理の評価スコアの平均、NON, medianは、説得的原理はないとした者による、サーベイ1での原理の評価スコアの中央値。注² EG：平等主義、PRO：比例性、UT：功利主義、SUF：十分主義、HP：危害原則、ALT：利他主義、COM：共同体主義、INR：間接互惠性、REC：承認、SUV：世界の存続、AUT：権威、PUR：清浄。

表S16. 7か国の人口統計データ（UN, 2024）

	日本	フランス	アメリカ	中国	UAE	インド	南ア
中央値年齢（歳）	49.4	42.3	38.9	39.8	33.9	28.4	27.6
今後10年間の人口増	-5.56%	+1.37%	+4.74%	-2.85%	+15.71%	+7.39%	+10.37%

注）中央値年齢は2024年。人口増は、2024年から2034年までの増加見込み

表S17. イデオロギー、性別、年齢、居住地、子どもの有無による自由回答の特徴（コーディングルールに該当する語の使用者の割合）

1) イデオロギー

カテゴリー	保守	リベラル	合計	カイ二乗
将来世代/子ども	686 (45.8%)	927 (43.7%)	1613 (44.6%)	1.394
人類/地球/生存	288 (19.2%)	405 (19.1%)	693 (19.2%)	0.002
遺産/持続可能性	127 (8.5%)	206 (9.7%)	333 (9.2%)	1.483
危害/危険	109 (7.3%)	156 (7.4%)	265 (7.3%)	0.001
ケア/保護	264 (17.6%)	404 (19.1%)	668 (18.5%)	1.124
幸福/機会	144 (9.6%)	206 (9.7%)	350 (9.7%)	0.003
正義/責任	96 (6.4%)	162 (7.6%)	258 (7.1%)	1.848
清浄/汚濁	55 (3.7%)	95 (4.5%)	150 (4.1%)	1.260
平和/調和	45 (3.0%)	96 (4.5%)	141 (3.9%)	5.063**
共同体/家族	10 (0.7%)	21 (1.0%)	31 (0.9%)	0.734
経済	52 (3.5%)	72 (3.4%)	124 (3.4%)	0.001
技術	87 (5.8%)	128 (6.0%)	215 (5.9%)	0.049
税	8 (0.5%)	8 (0.4%)	16 (0.4%)	0.197
禁止	0 (0.0%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	0.222
政府	27 (1.8%)	13 (0.6%)	40 (1.1%)	10.277***
回答者数	1499 (100.0%)	2120 (100.0%)	3619 (100.0%)	

2) 性別

カテゴリー	男性	女性	合計	カイ二乗
将来世代/子ども	756 (42.2%)	857 (46.9%)	1613 (44.6%)	8.137***
人類/地球/生存	345 (19.2%)	348 (19.1%)	693 (19.2%)	0.010
遺産/持続可能性	155 (8.6%)	178 (9.8%)	333 (9.2%)	1.189
危害/危険	118 (6.6%)	147 (8.1%)	265 (7.3%)	2.665
ケア/保護	289 (16.1%)	379 (20.8%)	668 (18.5%)	12.621***
幸福/機会	148 (8.3%)	202 (11.1%)	350 (9.7%)	7.848***
正義/責任	125 (7.0%)	133 (7.3%)	258 (7.1%)	0.090
清浄/汚濁	64 (3.6%)	86 (4.7%)	150 (4.1%)	2.681
平和/調和	68 (3.8%)	73 (4.0%)	141 (3.9%)	0.054
共同体/家族	16 (0.9%)	15 (0.8%)	31 (0.9%)	0.003
経済	63 (3.5%)	61 (3.3%)	124 (3.4%)	0.038
技術	104 (5.8%)	111 (6.1%)	215 (5.9%)	0.081
税	5 (0.3%)	11 (0.6%)	16 (0.4%)	1.479
禁止	2 (0.1%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	0.519
政府	21 (1.2%)	19 (1.0%)	40 (1.1%)	0.047
回答者数	1793 (100.0%)	1826 (100.0%)	3619 (100.0%)	

3) 年齢

カテゴリー	若年層	中年層	高齢層	合計	カイ二乗
将来世代/子ども	635 (45.6%)	830 (45.3%)	148 (37.6%)	1613 (44.6%)	8.823**
人類/地球/生存	245 (17.6%)	344 (18.8%)	104 (26.4%)	693 (19.2%)	15.694***
遺産/持続可能性	135 (9.7%)	175 (9.6%)	23 (5.8%)	333 (9.2%)	6.010**
危害/危険	114 (8.19%)	129 (7.0%)	22 (5.6%)	265 (7.3%)	3.517
ケア/保護	255 (18.3%)	349 (19.0%)	64 (16.2%)	668 (18.5%)	1.714
幸福/機会	155 (11.14%)	165 (9.0%)	30 (7.6%)	350 (9.7%)	6.264**
正義/責任	107 (7.7%)	131 (7.2%)	20 (5.1%)	258 (7.1%)	3.163
清浄/汚濁	53 (3.8%)	73 (4.0%)	24 (6.1%)	150 (4.1%)	4.278
平和/調和	51 (3.7%)	78 (4.3%)	12 (3.1%)	141 (3.9%)	1.593
共同体/家族	13 (0.9%)	15 (0.8%)	3 (0.8%)	31 (0.9%)	0.172
経済	57 (4.1%)	64 (3.5%)	3 (0.8%)	124 (3.4%)	10.360***
技術	105 (7.5%)	101 (5.5%)	9 (2.3%)	215 (5.9%)	16.431***
税	13 (0.9%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)	16 (0.4%)	12.627***
禁止	1 (0.1%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	0.287
政府	19 (1.4%)	19 (1.0%)	2 (0.5%)	40 (1.1%)	2.225
回答者	1392 (100.0%)	1833 (100.0%)	394 (100.0%)	3619 (100.0%)	

4) 居住地

カテゴリー	都市	都市以外	合計	カイ二乗
将来世代/子ども	1026 (46.5%)	587 (41.6%)	1613 (44.6%)	8.054***
人類/地球/生存	407 (18.4%)	286 (20.3%)	693 (19.2%)	1.758
遺産/持続可能性	238 (10.8%)	95 (6.7%)	333 (9.2%)	16.388***
危害/危険	163 (7.4%)	102 (7.2%)	265 (7.3%)	0.012
ケア/保護	439 (19.9%)	229 (16.2%)	668 (18.5%)	7.390***
幸福/機会	238 (10.8%)	112 (7.9%)	350 (9.7%)	7.634***
正義/責任	178 (8.1%)	80 (5.7%)	258 (7.1%)	7.082***
清浄/汚濁	100 (4.5%)	50 (3.5%)	150 (4.1%)	1.863
平和/調和	96 (4.4%)	45 (3.2%)	141 (3.9%)	2.785*
共同体/家族	17 (0.8%)	14 (1.0%)	31 (0.9%)	0.273
経済	83 (3.8%)	41 (2.9%)	124 (3.4%)	1.645
技術	151 (6.8%)	64 (4.5%)	215 (5.9%)	7.764***
税	9 (0.4%)	7 (0.5%)	16 (0.4%)	0.018
禁止	2 (0.1%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	0.165
政府	17 (0.8%)	23 (1.6%)	40 (1.1%)	5.066**
回答者数	2208 (100.0%)	1411 (100.0%)	3619 (100.0%)	

5) 子どもの有無

カテゴリー	子どもあり	子どもなし	合計	カイ二乗
将来世代/子ども	1112 (45.7%)	501 (42.4%)	1613 (44.6%)	3.375*
人類/地球/生存	461 (18.9%)	232 (19.6%)	693 (19.2%)	0.200
遺産/持続可能性	248 (10.2%)	85 (7.2%)	333 (9.2%)	8.197***
危害/危険	188 (7.7%)	77 (6.5%)	265 (7.3%)	1.541
ケア/保護	491 (20.2%)	177 (15.0%)	668 (18.5%)	13.930***
幸福/機会	254 (10.4%)	96 (8.1%)	350 (9.7%)	4.611**
正義/責任	181 (7.4%)	77 (6.5%)	258 (7.1%)	0.887
清浄/汚濁	107 (4.4%)	43 (3.6%)	150 (4.1%)	0.968
平和/調和	94 (3.9%)	47 (4.0%)	141 (3.9%)	0.006
共同体/家族	19 (0.8%)	12 (1.0%)	31 (0.9%)	0.276
経済	88 (3.6%)	36 (3.0%)	124 (3.4%)	0.618
技術	161 (6.6%)	54 (4.6%)	215 (5.9%)	5.596**
税	9 (0.4%)	7 (0.6%)	16 (0.4%)	0.460
禁止	1 (0.0%)	1 (0.1%)	2 (0.1%)	0.000
政府	27 (1.1%)	13 (1.1%)	40 (1.1%)	0.000
回答者数	2436 (100.0%)	1183 (100.0%)	3619 (100.0%)	

注¹ 各カテゴリーへの言及の比率の高い欄に着色した（ただし、カイ二乗検定が有意で、かつ比率が3%以上のものに限る）。注² 若年層は39歳以下、中年層は40歳以上、64歳以下、高齢層は65歳以上。注³ コーディンググループについての説明は、表S13を参照すること。注⁴ *** 1% 有意、** 5% 有意、* 10% 有意。